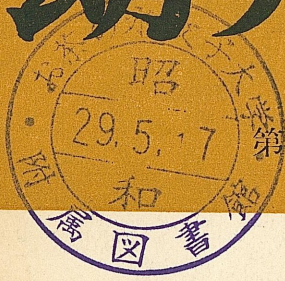


幼児の教育

家庭・保育所・幼稚園

第五十三卷 第六號



日本幼稚園協會

6



トツパンの絵本



絵本をお選びになるなら各年齢層に適切なトツパンの絵本シリーズから！

☆ 愛 児 絵 本
既刊20冊

☆ 童 謡 絵 本
全6集

☆ 天然色 写真絵本
既刊10冊

☆ さざなみ 童話絵本
全12集

☆ 天然色人形絵本
ストーリーブック
全6冊

東京日本橋茅場町一の二〇
振替・東京 四一六四七

トツパン

幼児のことば・かず・社会性を導く絵本！ 絶賛発売中

幼児知能検査絵本

岡武政太郎 共著
全5巻

- ① よい子のちえ
- ② よい子のちえ
- ③ よいのかず
- ④ よいのことば
- ⑤ よい子の生活

各巻共箱書付



★幼稚園のテキスト用に続々採用！

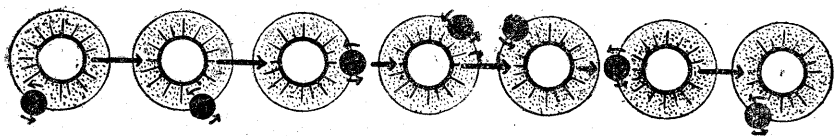
各巻価180円

B5判・原色刷整牢本・分賣

東京都文京区
小石川局区内

金子書房

振替・東京
103376



幼児の教育 目次 第五十三卷第六号

表紙

猪熊弦一郎

ビキニの灰から……………多田 鉄雄 2

集 1・家庭に望むこと・幼稚園に望むこと……………6
 佐竹千歳・佐藤 久子・大熊 米子

特 2・家庭との連絡……………17
 松村 光子・秋山 ちえ子

幼児グループの研究メモから……………東 安 子 25

座談会 グループに入れない子供……………28

☆小鳥の飼育と幼児生活☆……………遠藤 悟 朗 38

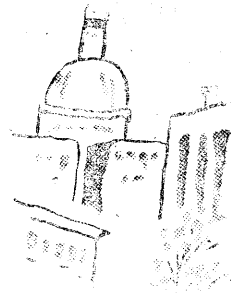
幼稚園の今昔 いぬはりこ(福井県)……………松村 伊佐武 42

こ の 子 供 た ち……………イーデイス・ウォートン作 松原 至大訳 45

教育実際指導研究会(予告)……………36

編 集 主 幹	倉 橋 惣 三	及 川 ふ み	齋 藤 文 雄
協 力 委 員	牛 島 義 友	波 多 野 完 治	山 下 俊 郎
	多 田 鉄 雄		(五十音順)

発 行 日 本 幼 稚 園 協 會



ビキニの灰から

多田鐵雄

ビキニの灰をかぶつて第五福竜丸が焼津の港に戻つて来た事件は、次第に忘れかけて行つた広島、長崎のあの当時の悲惨な思い出をまざまざと呼び返しただけではなく、その後、実情が調査されて行くにしたがい、更に危険指定水域をはるかに遠く離れて航行していた他のいくつかの船舶にもこの灰がそそがれていたことが明らかにされて来て、原爆、水爆が被害を与える範囲、領域の広大さは、私たちが、すでにつねにその危険にさらされているのだと云うことを、はつきりと悟らせたものであつた、と云うのは、単に一朝、事が起つて、わが国が攻撃側の目標とされる場合だけに限るのではなくて、たとえ我が国が紛争の渦中にまき込まれていない場合でも、例えば事が隣接の国々に起つて朝鮮が目標にされた時でも、或は放射能の色々の作用、影響から云えば、中国、ソ連が攻撃の目標にされた時でも、我が国もすぐさま色々な面で、直接、間接に大きな被害をうけずにすまされぬと云うこ

とが推定され得るに至つたからである。

一端、事が起れば、現在私たちが毎日身心を賭して丹誠して導き育てている可愛いこの幼児たちの凡てが、一瞬にしてあの悲惨な死の運命に直面するのである。そのことを思うと、これはすでに幼児教育者にとつても、決して縁遠いことではなく、むしろ身近かな、切実の問題になつてしまつているのである。私たちはそのような事態が起つた場合を想像して、居ても立つてもいられなくなるような恐怖と云うか、怒りと云うか、焦躁と云うか、暗い暗い気持につつまれてしま

う。けれども、えてして私たちは、このように一応は心からそれを感じながら、いつしか、はりつめた心もゆるみ、「誰かがその内にどうにかするだろう」「どうにかなつていくだろう」と云つた諦めに似た自慰の気持がひろがつて来て、「ともかくも毎日の丑分の仕事をはげむことだ」と云う態度にな

つてしまふのではないだろうか。もとより、その心配が片時も頭を離れないのでは神経衰弱になつてしまふわけで、このような自慰と云うか諦めと云うか、それは大切である。然しそれが無関心になつてしまつてはならないと思う。

私たちは日常の仕事に打込みながら、このような事態の起らないように絶えず協力し努力して行かねばならないのである。かと云つて、戦争絶対反対だ、軍備撤廃だ、平和教育だと云つても、それも亦あまりに近視眼的である場合があるし、ある意味では理想論にすぎない。

戦争はたしかに罪悪だと云つてよい。世界の誰もが平和を欲していることも事実である。然し現実の世の中にはあいかわらず罪悪は、多くの努力にも拘らず、絶えず行われていく。又世界のどこかに自己の利益のみを考へて他の犠牲を省みない一群が存在しているならば、そして戦争によつて何らかの自分たちの利益を考へる人たちが少数でもいるとしたらそれ以外の凡ての人々世界の大多数の人々の平和のための真剣な貴い努力も、ある場合には水泡に帰してしまふのである。私たちは幼児を、児童を、生徒を、学生を、平和を愛好する人間に教育して行かなければならないし、彼等を戦争の不幸から守つてやらなければならぬ。然し同時に、世界中の成人を、平和を愛好する人間に、平和を守る人間に、一人残らずをそのように教育することが出来てしまふまでは、戦

争の危険は依然として去らないのであるし、真の平和、永遠の平和は到来しないのである。云いかえれば、若干でも戦争の可能性が存在する限り、軍備制限とか、原爆・水爆の使用禁止とかを——勿論その努力は推進して行かねばならぬが——はかつても、それは事態をある程度柔らげ、好転させ、人類の不幸をやや少くするだけのことであつて、危険の可能性はあいかわらず存在するのである。ここに目標と努力の方向はひとしく平和愛好戦争の危険絶滅であつても、そこまで到達する現実の過程においては、今述べたようなことも含めて色々な手段、方法、順序があるわけで、そこにこの現実を賢明に処理して行く政治の使命と特徴があると云えよう。

私たちの社会生活一般が、政治や経済に直接結び付いているように、教育も亦政治や経済に直接結び付いているのである。そのことは政治の教育支配、経済の教育支配と云うことでは必ずしもない、この問題についてはここではふれない——。早い話が、先頃文部省から刊行された教育白書『わが国教育の現状』を批評して、本年三月号の文部時報において矢口新氏が正しくも「金がないのはもうあたりまえで一応納得するが、それにしてもと云うことをわれわれは望んでいるのである。こうあとからあとからどれもこれも金がありませんといわれるとうんざりしてくるのである。教育万金金の問題という分析であつてはならない」と指摘している通りで、

たしかに教育は金を必要とするし、金によつて効果が左右されるが、であるからと云つて教育努力は無限に金を要求することではなくて、限られた予算、可能な経済の枠の中で、いかにして、より良い教育をなして行くかに問題はかかつているのである。節約と云う意味を本来的にもつ経済と云う言葉が、ここでも考え合わせられるであろう。ひるがえつて、この教育費を策定する根拠が教育立法、教育政策であることを省みるならば、ここでも政治が直接、間接に教育に結びついていることは自明の理であるし、前述のように、平和のための政治も亦、直接に教育に関係して来るのである。従つて私たち教育者は、教育を考へるとき、同時に政治をも考へないわけには行かないのである。私たちはつねに政治の在り方を見守つて行つて、為政者が賢明に現実を理想に近付けて行く努力をしているかを、又その方法が正しく行われているかを監視して行つてこそ、初めて教育があるべき姿をたもち得るのである。

しかしながら、その事が実は容易なことではないのであつて、その例を直接に教育を対象として立案され、多くの論議をかもし出してゐる教育中立法案——おそらく本稿が活字になる頃には、すでに可決されているか、葬むられてしまつてゐるかのどちらかであるが——にとつて眺めて見よう。もともこの法案に対しては、直接に關係のある父兄の側、現

場の教育者の側から、もつともつと発言があるべきだと思ふし、もつともつとよく考へた意見が出て来るべきだと思はれるのであるが、この法案がたとい可決されたにしても、それで問題が終つたのではなくて、むしろ問題はこれから初まるのであり、今後更に更に考へて行かねばならぬことだと思ふのである。

- 教育中立法案に関する賛否の意見の焦点を概括して見ると
- 1 この法案の立案の動機が社会党と協同戦線に立つと見られる日教組に対する対策であつて、しかも自由党が反対党たる社会党の勢力を削減せしめようとする企図からなされた不純なものであるとすることに關する論議
 - 2 それに關連して現在の日教組自体の在り方に関する論議
 - 3 日教組の責任の有無は一応問題外として、偏向教育が一部に行われているか否かの論議
 - 4 偏向教育が一部に行われていることを肯定した上で、それ故にかかる法案が必要である、又何等かの対策が必要であるが、この法案は不適當であるとする論議
 - 5 偏向教育が一部に行われていることは認めるが、それだからと云つて、他の正しい教育の行われている面も含めた全体を律するかかる法案、又は何等かの対策は不必要、有害であるとする論議
 - 6 いわゆる偏向教育こそが真正な教育であるとするとする点に關

する論議

7 世界観の相違から由来する論議

8 立案の理由となつた現実の事態とは別に、この法案自体がもつところの、教員の自主性侵害の危険性に關する論議とすることが出来よう。そしてこの法案はこれらの問題点を内蔵しながら法律にならうとしているのである。

この法案を支持するのは一言にして云えば、保守政党和一部少数者だけであり、學者、教育者、新聞關係者、その他の圧倒的多数がこれに反対であるとされている。然し反対意見の内容をよく吟味して行くと、上に述べた沢山の争点のうちどのいづれか一つを根拠にして、或はその二三を根拠にして主張している場合が可成り多く、これら凡ての争点をことごとく吟味した上で反対論を主張しているものはあまり多くないのである。これらの争点の一つ一つが夫々に重要な意味をもつている以上、単に反対が圧倒的に多いと云うだけではすまされない問題である。

私たちは早急にこの法案に賛成し、反対する前にもつとつと考へなければならぬのであつて、その点で早急に事を運ぼうとする政府及び保守政党的態度に反対すると云うのであれば、それは当然のことであろう、かと云つて真に正しく教育が行われて行くためには、たとえば一体偏向教育が一部にあることを認めたとて、それが全部でないから構わないな

どと云うことが教育の世界にあつてよいものであろうか。殊にこれは被教育者の精神發達段階の相違によつて大いに性質を異にして来るのであるが、何にしても、たとえ実際には誤つた教育を絶滅することが出来ないまでも、その絶滅を不斷に志向すべきではなからうか。そしてそのために出来るだけの手段を講ずべきではなからうか。一方、教育者の信念、言動がいわれるように不当に圧迫されるような結果が生ずるとしたら、これも亦由々しい問題である。

このように教育中立法案一つをとつて見ても、単に賛成、反対の意思表示の奥に——この意思決定も重要であるが——実は私たちが教育に當たるために、もつともつと考へなければならぬ問題が沢山含まれているのである。しかもこのように複雑な様相をなして横たわつているのである。一見したところ教育には直接關係がないように見れる政治にしても、実は必ずその奥で深く教育に關係しているものであり、その故に却つて問題はより複雑で、見極めのつきにくい場合もある。實際のところ、政治は他の人々にとつて少しも劣ることなく、私たちが教育者にとつても、自分たちの問題なのである。私たちがつねに政治に關心をおこたらず、又政治の奥にある問題を念頭においてこそ、初めて直接にビニキの灰にながるのである。

家庭に望むこと 幼稚園に望むこと

(1)

家庭に望む

——幼稚園から——

佐竹千歳

て先ず私は、彼等の神々しい迄に真剣な姿と全身に漲っている生きる力とに胸を打たれる。私はこの幼い魂一つ一つに無限の愛情と尊敬を覚えると同時に、新しく負わされた重大な保育の責任を思わずには居られない。

近來保育に対する理解が深まり幼稚園についてもその是非云々の

時代が過ぎ去つた事は同慶の至りである。が然し、学令前の教育が常識となつた事により、今日では入園そのものが狭き門の感を一般に与えている。この点からも、わが子の新入園は両親を喜ばせたくにほつと一安心させるにちがいない。

然しここに問題となるのは、幼稚園というものに對して適當でない解釈が世間には案外に多い事である。「幼稚園にやつておけばおやつをせがまれなくていい」「子供が幼稚園に行つてゐる間はのうのう出来る、保育時間はなるべく長くしてほしい」「うちの子は幼稚園に行つてゐるから放つておいても安心だ」等々。

なるほど幼稚園では幼児をあすかり適当な環境を与えて、幼児期に必要な生活の凡てに互つて指導する。身体の面はもとより、知性の發達、情緒の發達、更に社会性の發達につい

表がのび雲雀が歌つて再び春がめぐつて来た。春の訪れはいずれの家庭にもうれいし事ではあるが、とりわけ新入園の愛見を持つ家庭では一家挙つてどんなにか其の日を待つて居る事と思う。

私は幼稚園に在つて年毎に多くの幼な子を迎えている。例年の事乍ら之等の幼児を迎え

て細かい心づかいをしては居るが、之を時間的に見て彼等の一日の生活の一部にすぎない事は明かである。故に「幼稚園にあずけて置けば安心だ」という所謂あなたまかせの考は根本的に改めてほしいと私は思う。幼児期の教育は幼稚園だけでなされるものではない。私は保育の任にある者の立場から幼稚園を理解して頂く意味あいも合せて、幼な子は斯く扱わべきもの、幼児の教育は斯くありたきものと願う点を經驗を通して世の多くの父母、特にお母様に訴えたい。

では、幼稚園とは如何なるものであるうか。

一、幼稚園とは小学校の準備教育をする所ではない。

私は先ず第一に此点を強調したい。世の識者、又教養ある社会人、時には教育者自身の中にも此点を誤解している向が相当にある事は、我々にとつて誠に驚異に値する。世の多くは成人してよい職業につく為にのみ大学に慣れる。この様な人は大学に学ぶ為に高校や中学があり、中学に学ぶ為に小学校が存在するまでも解釈して居るのであるうか。

我々は教育の段階を幾つかに分けて考えているが、仮りにそのいずれもが本来の目的を持たず次の段階の為の従属的な存在であると解釈するならば、それは教育に対する甚しい冒瀆であると言つても過言ではない。人間は教育の各段階に於てもつと人格的な扱いを受けてよいものである。否人格的に扱われねばならぬものである。私は教育に於ては知的方面と並

行し、或はより以上に人格完成への教育が、特に幼児期になされねばならぬ事を常に念頭に置いて居る。この故に、もし「〇〇有名校に入学させる為に準備教育をみつちりやつてほしい」とでも言う人があつたら、私はきつぱりと入園をお断りする「私の園ではそれには応じかねます」と。

二、幼稚園は幼児に対し社会生活への橋渡しをする所である。

幼児が父母の手を離れ幼稚園生活に入るといふ事は、彼等の生活にとつて最も著しい変化で特筆すべき新経験である。私は彼等にこの經驗を通して人生の黎明を感じさせ、希望と抱負と自信とを抱かせ、隣人を愛する愛と真実の生活に導きたいと希つて居る。

入園の時期は花の四月、小鳥がさえずり風も薫る春たけなわの候である。暖かい母の懷を感じさせる雰囲氣に、優しい先生に寄り添うて不安なく過す半日は誠に美しい夢にも似た社会生活への橋わたし第一歩である。二日、三日、四日、彼等の五感は急速に活動を進展し全身をもつて彼等自身の生活を生活して行く。彼等はある時はグループを作り、又時にひとりを楽しみつつ、自由に考え、工夫し、遊び又学ぶ。その間には子供らしい幾多の発見がなされ又失敗も繰返されるであらう。斯くして幼児達は次第に社会性に目覚め、他を理解し己を持する道をわきまえて行く。幼児と共に在る場合我々

は常によき助力者、よき指導者でありたいと努める。一人々々の個性をよく理解し尊重して落度なく彼等の行動を見守りつつ、幼児と共に学びその生活を共にするものでありたいと願つてゐる。

幼児は環境から非常な影響を受けるものである。彼等は環境によつてよい経験をしたり、時として反対に悪い経験をしたりする。子供の時にあけくれ眺めた母の笑顔、やさしい言葉使いは、いつかその心に焼きついて殆んど意識なしに子供の人柄になつてしまふ例がよくある。斯く考えてくると、家庭がそうであるように幼稚園の責任も重且つ大である。我々は常によい環境に幼児を育てる工夫をせねばならぬ。

私は幼児に最もよい環境は自然であると思う。青い空、緑の林、そして清い空気、花、鳥、水、凡ては彼等の心を樂しませるのみならず、春夏秋冬さまざまな姿をとつて自然の営みを語り宇宙の神秘を学ばせてくれる。私はさんぽと称して入園当初から園児を度々自然の中へ案内する。彼等は嬉々としてれんげを摘み、蝶に戯れ、雑草を採集し、雨蛙を追つてかけずりまわる。時にはキヤベツ畑に絞白蝶の生態をしらべたり、もち草をつみ帰つて草だんごを作り時ならぬ御馳走に園児を狂喜さかたりもする。まことに楽しい園外保育、私はこれ程豊富に素朴な而も貴重な教材を提供して呉れる所を他に知らない。

三、幼稚園に於て園児はすべて平等に扱われる。

日本は敗戦によつて世界に類例のない平和憲法が制定され民主国家としての誕生を見た。戦後九年、日を追うて形勢は逆転の方向にあるように見える。然し何はともあれ、我々幼児教育者が平和の線に沿つてどの子も平等に良心的に扱つてゐる事は事実だ。ある母親は、わが子こそ、我が子ばかりはと願つてゐる事を知つてゐるが私はとり上げない。反対に貧乏と勞働とにさいなまれ自らを卑下してゐるお母さんに私は告げたい。「御安心下さい。あなたのお子さんはしつかりと見守られていますよ」と。

次の時代は子供が作る。よい社会、よい国家、よい世界を實現して貰うために、我々は命がけで真剣に幼な子を守り育くまねばならぬことを痛感してゐる。

紙面の都合で私は書きたい事を割愛するが終りに二つ三つお母様方へ是非共お願いしたいことを記して筆を擱きたい。無暗に子供の生活に干渉しないこと、これがその第一である。大人はおせつかいやき、又身勝手なものである。子供は自分の所有物のように心得て大人の考を押しついたり、一寸した思ひつきで叱つたり賞めたり、童心を傷けるような批評や悪口を不用意に口にする。これはお互に慎しみたいものである。

次は子供を自分の虚栄のために育てないこと、親の満足の

ために子供には迷惑千万なお稽古事などを漚わせるの類もその一例である。

家庭を浄化してお互に真心のこもつた励ましあい、助けあい、愛しあいをする地上の樂園を実現して頂きたい、これが第三である。この為には婦人……殊に母の……の自覚をまず取り上げなければならぬ。もつとどつしりと大地に根をおろし、なやみ苦しみ凡てをのり越えて、天に宝をつむ高い理想に母親が生きる時、子供は真に子宝としての光を放つものである。換言すれば母の犠牲の精神によつて子供の魂が成長するのである。

斯くして浄化された美しい家庭と行き届いた幼稚園、この両者が協力して補いあいつつ幼児の指導にあたる時に幼な子に対する教育は最高の水準に迄高められて行く事を信ずるものである。

(松沢幼稚園主任)

幼稚園に望む

——子供と共に——

佐藤久子

この四月に、四人目の女の子を幼稚園に送る私は、昭和十一年より足かけ五年、幼稚園の保姆をつとめました。あの頃私と遊んだ子供達はもう大学に入りそしてお嫁にいく子もいます。つい先達も嬉しいおめでたの便りに、早速お祝を送ろうと小包を作りながら、私はまだあの頃の楽しかつた自分の姿と、今の世帯疲れた自分とが、別の人間でもあるかのような錯覚をおこしつつ、包みに紐をかけていたのでした。

長男、次男、長女と三人を同じ幼稚園に入れ、私は世の常の母親と同じように、遊戯会に、遠足に、運動会にと、いそいそと子供と出かけました。でも、時々忘れものをした時のように子供の通つている幼稚園がもの足りなく思われ、覗いては悪いような気もしながら覗かずにはいられません。

「先生は、ちつとも遊んでくれないよ、よそのおかあさんとお話ばかりしているの、あとはお掃除よ」

「ふーん」

「只今」……と子供が帰れば、つい口ぐせになつて、

「今日は何してきたの」

と、口から出てしまいます。

「なんにもしてこないさ。ただ遊んできただけ」

「どんなことしてあそんだの」

「いろいろなこと、いつもとおんなじことだよ」

子供は面倒臭そりに外へかけ出します。

でも時には、「今日は紙芝居と幻燈面白かつたよ」「今日は人形芝居面白かつた。」と帰つて来ています。でも、「先生とかけつこしてね。」とか、「先生とかくれんぼしてね。」とか「先生と何々してね」といつたことはありません。

広いお遊戯室も、広い庭もない幼稚園に、二百人もの子供がただゴチャゴチャと集つているその中で、先生は子供とかけつこどころか、かくれんぼをする余裕もないことは分つていますが、子供は（家の子ばかりでなく）先生は『先生』であつて、只監督者であり、時には紙芝居、人形芝居を見せてくれる先生であつて、自分等の仲間などとはトンデモナイという心を心得ています。

でも私はまた過ぎ去つた昔の自分の姿をすぐに思い出さずにはいられません。私は「先生」ではなかつた。みんなの仲間だつた。遊ぶことが嬉しくつて楽しくつて、子供と競争して朝早く出かけていつたあの頃のこと。仕事（例えば粘土細工でも切り紙でも絵を描くことでも）なんか、その時その時で、どこでも、ブランを立てずにやつたりやらなかつたり、時には一人か二人と向きあつて一時間も二時間も續けて（こつちが夢中になつて）やることもあれば、熱心にやつている子をほおりつばなしにしてほかの子と野原へ出かけていつてしまつたり、一人づつ自転車にのせて、広い学校の校庭を順番に四〇回もまわつたり、悪者になつてみんなに縄でしばら

れ、「お帰り。」になつても誰もといてくれないで先生（この私）が涙をボトリとおとしたら、みんなあわてて、やつと縄をといてくれたことなど。芝ふの上で男の子とさかだちしたり、スケートしてあんまり面白くつてみんな家へ帰すのを忘れてしまつたり、私はいつもガキ大将で、子供は一人残らず私のあとにくつつきまわつていました。それも私が若かつたせいでしょうか。

なんと今の幼稚園の先生方は、あまりにも偉すぎて近よりがたいことでしょう。若気の至りとはいえ全く冷汗ものだつたと、今更首をちぢめてみても取かえしがつきません。

大体、市内の幼稚園、保育所などでも、年配の保母さんが多く、師範（昔の）出の方や、小学校の助教をつとめたような人が多いようです。「教える」という觀念、「子供達をまとめる」という考えがいつもどこかにひそんでいるように思われます。そして人には「見せる幼稚園」であるようです。

幼稚園としての、また保育所としての条件が悪いというとは、先生だけを批判する場合、非常にお氣の毒にも思いますが、世の中の状況がしらすしらすにそうさせたのかも知れません。子供自身がまとまりのない、先生自身が頼りどころのない、テンデンバラバラの感じがします。こんなような風潮にどうしてなつて来たのでしょうか。幼稚園の先生をせめる前に、この時代の大きな流れというもののへの批判をこそ、

我々母親は持たなければならぬとおもいます。

私の家へは毎日ピアノや歌を習いにたくさんの子供達が通つて来ます。(主人の職業)低学年や学令前の子も多いので、家の子供は年中幼稚園の中で暮しているようなものですし、私もまた十何年も子供から離れた生活をしたことがありません。子供の中に暮し、子供と共に生きてきました。子供らは少しも大人のように異つてはいませんの。

ただ、この頃の子供の多くは、すばい、つこく、ぬけ、目なく、利巧すぎると思うこと(これは私のきらいな子供のタイプ)ここにはたくさんさんの学校があるのに、毎年各幼稚園からは競つて大学の附属小学校を受験させます。試験前の一二ヶ月は先生も父兄も血眼で知能テストを始めます。(子供の中にも或いは自覚してやつている子もあるでしょうし)

「今年は何々幼稚園からは何割入りましたね、あそこの幼稚園に入れておけば附属入学はまちがいないでしょうよ」

「何々幼稚園の先生は不熱心でちつともテストをして下さらないから来年この子の下は別の幼稚園にするつもりですよ」
「幼稚園に入れないので、あそこの子はとうとう落ちましたよ、やはり幼稚園で教えて頂かなければ駄目ですわネ」

そんなわけで昨年あたりから幼稚園の希望者が定員を超過して、今度は幼稚園に入るのにテストで落ちる者が出てきました。

なんとかいい幼稚園に入りたい、又附属小学校に入りたい熱心な母親達は、どうかしてという熱心さがあまつて、先方のごきげんを伺いに度々参上するようになります。先生方もつい母親の熱心さにほだされて子供と遊ぶ時間より父兄とお話をする時間の方が長くなりがち。また「我が幼稚園こそは附属合格者を一人でも多く出さなければ」と暗黙のうちに先生方も張合つていらつしやることでしよう。

全くその間子供達は何をしているのでしょうか。学校なんか本当はどこだつていいのです。(子供の本当の心は)でも幼稚園でも家でもいちめられます。

「お宅の××ちゃんなんかこんなにお利巧ですもの、どんなテストでもさつさとキビンに出来ますもの、本当に大丈夫でございますよ」

と幼稚園の先生に一言いつて頂ければ、どこの母親も眼に涙がたまるほど嬉しく、そうおつしやつて下さる先生がありがたく神々しくさえおもわれます。そして幼稚園の先生方もそうゆう子供なら、なおさら特別扱い大事にしなければなりません。

どうでもよい子はどうでもよいのです。ほおつておいてどこかしらの学校にはゆけるのですから。

そんな幼稚園であつても、家の子はこの四月から幼稚園に入れるということがどんなにどんなに嬉しく待遠しく待たれ

て、毎日曆に○をつけているのです。

「××子、幼稚園になんていかなくてもいいね、こんなに毎日たくさんお友達が来ていつしよに歌もうたえるんだから」

「いやよ、だつておべんとうないもの、家には運動会も遠足もお遊戯もないもの」

私が本気で言つてると思つて、子供はびつくりしたように私をにらみます。

「そうね、やつぱりいこうね、もつともつと大勢のお友だちがいるからね」

私も、もうそろそろおべんとうや草履袋を買つてやらなければなりません。

スカートも靴もそろえなければなりません。なんとなく、それも子供と同じように嬉しいことの一つになつて幼稚園の入園を待たれる世の當の母親の一人です。

子供が幼稚園に入つたら、みんなと仲よく楽しくおもしろい遊びでくるとそれでもいいと願いつつ。

(福島市 渡利舟場十五)

幼稚園に望む

— 家庭から —

大熊 米子

幼稚園にのぞむ、と云う題を頂いて、私は今更に、私共親子の幸を、深く思い返さなければ居られません。それは、母親の、心の故郷とも云うべき母校で、母親の恩師います幼稚園で、三人の吾子が皆揃つて、大切な幼児期を、次々過ぎて頂きまして、今日末の子がそこを巣立たせて頂いたのをございます。家庭から幼稚園への希望というものは、すべて叶えられ……いえ、母親は、何を幼稚園に希望する暇もなく、吾子には、次々素晴らしい環境が与えられてゆきました。幸福な母親は、ただ、其のすべてに、いつも後から子供の喜びと共に、喜び感謝して居る有様だからでございます。

でも、私は与えられた題に対して、責を負わねばなりません。私は今此処で、吾子三人の幼稚園生活の中で、特に有難く感じた事どもを、思い出して「母親から幼稚園にのぞむ」

事に代え度いと存じます。拙い文で、聊か私事を書き連ねます事を、お許し願います。

長女正子は、昭和二十一年四月の入園、言葉をかえて申しますなら、終戦直後の、非常時の中に入園致しました。人手はなし、物はなし、回覧板で「明日はお芋の配給」とでも申されますと、隣組は揃つて行列に続かねばなりません。送り迎えを原則と致します此の幼稚園では、やむなく、子供をお休みさせるという事になります。今考えましても、屢々親の事故で欠席させました長女には、可哀想だつたと、至らぬ親は心が責められます。然し、其の、生活の御都合主義にさいなまれる子供の心を、温く救つて下さつたのは、幼稚園の継続的なお仕事でした。材料不自由の中から、先生は次々と工夫され、空箱やら、古薬書やらで、或時は動物園、或時は玩具屋さんごっこ、と、正子は、いつ幼稚園に行つても、楽しい目標の中に溶け込む事が出来ました。

それに、やむなくお休みした日でも、家にあつて、心の中に、楽しい幼稚園のお仕事を、温ためて持つて居る事が出来ました。お休みして、知らないお歌を、お友達が歌つても、自分だけお習いしなかつたお遊戯があつても、一つのお仕事に力を合せて居る、親しい気持では、そんな事は、お友達の口もとをみながら、手ぶりをしながら、子供心には、案外こたわりなく、追付いて行けるようでした。幼稚園にも、吾子

にも、済まない済まない、毎日思いくらした私の心に、継続的なお仕事とは、何と有難いものだらう……と、しみじみ感じたものでした。

長男一郎は、よく申せばおとなしいのですが、正直に云えば、親の慾目で見ても、ぼーつとして居て、頼りない子供でした。三年保育から幼稚園に入れて頂きましたが、二年経つても、一向ぴんともばつともして参りません。お友達が何をして居ても、気にならない。

何に対しても、積極的な興味を示さない。歯がゆい子供でした。此の儘、学令期を迎えるのかしら、と、私はひそかな心配を心のすみに感じて居りました。其の頃幼稚園では、リズム遊びとして、いろいろな劇形式の遊びをして居りました。配役は、其の都度子供の希望で、誰でも、何の役にでもなれる様になつて居りました。一郎は何となく浦島太郎が気に入つたらしく、それでも、一向上手にもならず、度々此の劇遊びをして居ります間に、何となく、此の浦島太郎にはまつてしまつたらしいのです。何と、劇の主役です。敢て、此の劇の時からとは申しませんが、此の頃から、一郎は目に見えて潑瀾として参りました。適度の優越感と自信、そんなものが、一郎の心の中に芳生えたのではないでしようか。

子供の自然の遊びの形態では、能力のある子供が、いつでも優位を占めやすい。其処を、先生は、実に美事に捌いて下

さつたのでした。誰でも、何の役でも同じに出来る……一郎も、お友達と同じ事が出来る、と云う自信と、想像力から来る優越感が、一郎を脱皮させた様でした。私は、次第に變つて行く吾子を、どんなにか、心嬉しく眺めた事でございましょう。適当な時期に、適当な環境を、個々に与えて下さる、本当に周到な御計画に唯々私は頭が下るばかりでした。個々に、と申せば此の幼稚園では「皆さん」と云うお呼びかけを殆んど伺つた事がありません。いつも、太郎さん、であり、花子さん、であります。ですから子供は、いつも先生と一対一の氣分で、家庭で親と居る時と同じに、心おきな生活の場と思つて居る様です。斯うして何処までも、個々の芳生えを尊重して下さる一方では、子供は、幼稚園社会の構成分子の一人であると言ふ事を、いつの間にか泌みこませて頂いて居ります。末つ子の甘えん坊で、家庭では、我儘が目につきます次女が「お外ならぶらんこ、おままごとなら、お母様で遊ぶのが一番好き……でも、いつも自分の好きな事許りして居たら皆が可哀想でしょ？ だからいつもかわつて上げるのよ」と、さもさも弁えた風に申します。斯う云う事は幼稚園以外の、どこで身につけて頂けましょう。個人と社会との妙なるハーモニーを知らず知らず弁えさせて頂く事は、何にも替え難いと存じます。

又此の次女は、少々依固地で非社交性のある子供でした。

末の女のせいにか、家に居りますと、親が氣を付けて居る筈でも、お天下降の存在になり易うございませう。それが禍致しましてか、入園当初はなかなか素直にお友達のお遊びに溶け込めず、そんな不満があつてのせいにか、今迄に無かつた、指をしゃぶる癖が現れました。私は早速二組のミトンを拵えまして、一組は宅に、一組は先生にお預け致しまして、若しお指をしゃぶつたらすぐ手袋をはめますよ、と云うことを和子に嚴重に申し渡しました。其後、おや、もう！ とか、あら、又！ とかの波こそございましたが、何時の間にか手袋は不要になりました。と同時に、お友達遊びも、だんだんに打落けて出来る様になりました。……と、之は実に本来あべこべの話して、実は先生は此の偏屈娘を、何とかして一日も早く遊べる子供にして下さるうと、手袋よりもそちらに重点をおいて頂いて居つたのでした。公衆の面前で手袋などはめられたら、嘸自尊心に恥じて……とひそかに北叟笑みましたのは猿智恵の浅はかさ……それで、あれこれ考えますと、どんな場合でも、「斯うしましょう」が先で、「斯うしてはいけません」と仰言る事は少い様です。ああ、それでこそ、子供は、自発的にのびのびと動ける様でした。「もの出しつ放しはいけません」……いえいえそこは「さあ、お片付けよ」と、先生なら仰言いましょう。「お友達に意地悪や仲間外れをしては、はいけません」いえいえとんでもない。子供の世界は、

そんな暗いものではございません。「さあ、一緒に遊びましょう」……です。そして、先生も、身も心も一緒に遊んで下さるのです。之が、子供の樂園でなくて、何でございましょう。本当に幸な、子供達、斯くも周到な用意の下に、いかに、さり気ない風におかれて、子供達は、すくすくと伸びて行つて居ります。

扱、どうやら与えられた紙数も、残り少くなりました。最後に私は、親の為の御願いを記して、此の稿を終らせて頂き度いと存じます。それは、幼稚園では、子供を入園させて下さると同時に、親も入園させて頂き度いのでございます。折にふれ、事につけ、子供の問題を中心に、是非とも成人教育をして頂き度いのです。「吾子」というものは、全く曲者でございませぬ。どうしても冷静に、本質的なところが見えなものです。宅の○子は、宅の△夫は、どうしても特別なものとして、親の心の中に坐つてしまひます。そうした母親の弱点を、正しい方向に教え導いて頂けるのは、多くの子供達に日夜接して居られる、幼稚園の先生方において、他にはいらつしやらないと存じます。私共は、本当のよい意味の賢明な親になりたひのです。そうして幼稚園中の親子が、お一人の先生を囲んで身心共に理解し合ひ、結び合つた時こそ、私共の子供が、日本の子供が、更に更に、よい子たちになる日だと信じて居ります。

(中野区野方町一〇六三四)

▽おしらせ

次の二つの講習会は、今年の夏も開催の予定で目下準備中でございます。どうぞ、今年も皆様おいで下さいますようお願い致しております。

▼認定講習会

授与単位	一般教育	二単位
期日	専門教育	二単位
会期	六月下旬より七月下旬まで	
	一講座	二〇〇人

▼ゆづぎ講習会

講師	戸倉ハル先生
題目	欧米御視察御帰朝後初めての御発表
期日	七月二十一日——二十五日
	午後一時——四時まで

詳細は当幼稚園内講習会係までお問合せ下さい。

昭和二九年六月

お茶の水女子大学 附属幼稚園講習会係り

(東京都文京区大塚町三五)

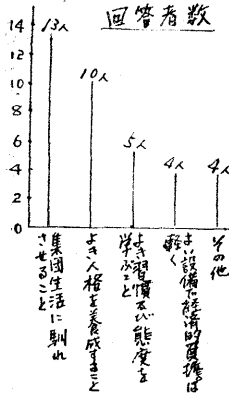
幼稚園に希望すること

——新入園児の家庭から——

アンケート

幼児を持つ家庭では、幼稚園に対して何を一番希望するかを知るために、今度新たに幼稚園に入園する幼児の家庭に左の問を提出してみました。

「あなたは幼稚園に対して何を希望しますか
一番希望する事柄を一つだけ書いて下さい」
この間に対し、東京都内公私立十幼稚園から百九十五名の中三十六名の回答者を得まし



た。回答者の数が少ないので、数字的にはつきりとした事は言えませんが、幼児を持つ家庭の幼稚園に対する希望が、何であるかという事は、大体分ると思えます。先生方の御参考に、その希望する問題を次の様にまとめました。

集団生活に馴れさせる事——この希望が最も多く、子供達が「集団生活に馴れて協調性を養い、更に積極的に正しい主張が出来る様に（国家公務員）」と希望しております。又、一人っ子を持つ家庭では「一人っ子なので、どうしても自己本位に行動しやすいため、幼稚園で集団生活に必要な協同性を子供の心に植えつけて戴きたい（麻雀倶楽部）」と希望しております。又、「集団生活に於ける子供の欠点の矯正（酒類商）」を希望するものも二三みられました。

よき人格を養成する事——「慈悲心ある円満なる人格を養成していただきたいと思えます。（会社員）」「明暗なき個性、善悪の判断

共同精神、自己の信念、を望みます。」「子供らしさを失う事のない様……（高校教諭）」等の希望がありました。最近の幼児教育を批判して次の様な希望がありました。注目をすると思われ。」「……近時、往々にして幼児の天才教育とか、年令不相応のませた教育をされるのに対し、父兄として、非常に反感と嫌悪を感じて居ります。子供には、子供本来の姿のままのんびりとさせて頂きたいものです。……」

よき習慣及び態度を学ぶ事——この問題に關しては、「衛生の躰を希望（教員）」「礼儀言葉使いを正しく教えて頂き度い（公吏）」「穏やかに成りますように（工員）」等々、家庭だけでは出来きれない子供の習慣やよい態度の形成を幼稚園に期待しているものも多かったです。

よい設備で、経済的負担は軽く——「入園費は安くしてほしい。又施設は一定の規則を文部省が設けてその規則に合った校庭或いは遊具を具え……（旅館業）」等の希望がありました。又これに關連して「幼稚園の時間を成るべく長くするように（商業）」との希望もあり、（27頁に続く）

家庭との連絡

—(2)—

幼稚園と家庭の連絡

—その方法と具体例—

松村光子

(一) 連絡簿による連絡
(二) 家庭訪問或いは幼稚園参観又は母の会を通しての連絡である。

幼児保育の一環として幼稚園と家庭の連絡の重要なことについては、今日まで屢々いわれてきた。幼稚園と家庭が等しく幼児の教育にあたるからには、教育方針を一致させる必要がある。そのためにはお互いの連絡をより一層緊密にしなければならぬ。

いま、幼稚園と家庭との連絡について考えると、およそ次の三方法が思い浮ぶそれは、

(一) 子供自身による連絡、

なつても幼稚園や家庭の意図を完全にはつたえがたい。もつとも伝達の内容によつては、年令、知能の程度などにも左右されるが、幼児の言語伝達に頼つて成功する場合がある。例えば、幼稚園から家庭に対しての連絡で、「明日は遠足です。持つてくるものは、お弁当と水筒です」という程度であれば四才児でも大体伝えることができる。「明日は遠足です。雨が降ったらやめて、お弁当は幼稚園でたべます」という程度のもので、五、六才ならば大体意味の通る伝達をすることが出来る。

ある子供についての経験であるが、「せんせい。きょうはね、私、よそへいくからお母ちゃんがお弁当がすんだらすぐ帰ってきなさいっていったの」と、朝から何度も気懸りそうにいった。それで、家庭からの連絡は別になかったが、子供のいうことをとり上げ連絡の紙を持たせてかえした。次の日母親から「昨日はどうも。朝ちよつと、お昼からよそへいく

といったきりでしたのに早く返して頂いて」と非常に恐縮した連絡を貰ったことがある。これなどは、幼児が、よそへいきたいという気持(欲求)と親の話した言葉とが都合よく結んで、連絡の形となったのであるが、子供自身を通しての連絡にあたっては、子供の欲求の在り方をよく見抜いておく必要があります。

(三)の家庭訪問或いは幼稚園参観(見学)又は母の会による連絡は、直接的であるという点で望ましい方法ではあるが、保育者と保護者との対人関係。訪問時間の点等である問題が生じやすい。両方の都合のよい時間を選んでわずか数人の先生と、多くの父母と連絡することには無理があり、また、訪問をするほどのことは無いが、知らせたいことがある場合も多い。まして、家庭訪問が保育者と保護者との私的なゆがんだ話し合いを強めることとなったり、保育時間にかわるがわる見学者が出入りすることになっては保育上にもさしさわりの多い。そこで(一)あるいは(二)による連絡の不十分を補うものとして、(三)にあげた連絡簿の使用がおこなわれ、効果をあげてきている。もとより、連絡簿の主な目的は、幼稚園と家庭とが緊密な連絡をとり、幼児一人一人に対する教育、保育の実をあげることにある。

家庭から「今日は少し機嫌が悪いようで御注意頂きたい」という一行の連絡。

幼稚園から「今日はハンカチを忘れていらっしやっただので困っていらしたようです」という連絡などが、幼稚園での子供の様子や、子供が何か不満な気持で帰宅した理由を理解するたすけとなる。

その他、身体検査・智能検査の結果などを記入し、幼児の身心の発達を正確に記録して父母と先生たちが、それにもとずき話し合う上にも、連絡簿は大きな働きをする。こまかい金銭に関するものも、連絡簿を通してはつきりさせることができる。

以上述べたことは、幼稚園と家庭の連絡についての一般的ななことであるが、次に、渋谷・鶯谷さくら幼稚園で使用している連絡帳について述べよう。

(1) その目的

幼稚園と家庭との緊密な連絡により、幼児の保育に万全を期すことと、その子の幼児期の過ごし方の特徴を記録し合ってお互いに理解を深める。それによって、幼稚園と家庭との親密さをますことに役立てる。この帳面を大事に扱うことによつて子どもたちが、子供たちのために努力している人たちの真面目な気持に自然にふれていくことをねらう。

(2) その方法

大型ノートを用意し、上の頁は家庭より、下の頁は幼稚園よりの記録用とする。このノートは幼児が毎日もちこ

とを建前にしているが、必要な時は幼稚園なり家庭なりに一両日おくことがある。長い休みの時は、主として家庭におく。

(3) その内容

〔家庭よりの頁〕入園までの幼児の身体的な記録（例えば病歴であるとか、身体的に特別注意していること）精神的な記録（例えば、性質の特徴、知能に関する記録など）更に、入園後の変化、在園中の心身の成長発達の具体的記録、幼稚園に対する希望・感想・意見・質問などを記録する。また、幼児期にしかみられない子供らしい面白い表現を記録する（例えば、煙は足も羽もないのにどうして空へ上ってゆけるのだろう。四才児）。更に、日々のこまかい連絡、金銭に関する連絡（例えば保育料やその他を子供にもたせた場合記入して貰い、こちらで受領を記入する）によつて、間違いをなくすことに役立つ。

〔幼稚園よりの頁〕

(イ) 幼児一人一人について主として担任の保育者が観察・記録する。

入園当初の感想、その子供に關した出来ごとの記録、家庭よりの質問に対する答え、在園中の成長発達の記録、交友状態の記録、智能検査、身体検査の結果及びその状態の記録など。

(ロ) 幼稚園の全体的なうごきの印刷連絡をする。今週の

幼稚園」というたよりを毎週つくり、その週に行つた保育内容を書き綴り、子供達の遊びの状態、或は歌詞などを印刷し貼布する。また、園内での落し物、忘れ物、なくし物、伝染病の発生箇所等について各家庭で注意して貰うなど、こまかい事であつても全体に注意したい連絡を印刷し貼布する。

(4) その扱い方

「T子は昨日、私が買物に行つていて間よくお留守番をしてくれました」と母よりの連絡がある。子供達の前でそれを聞いて読む。「T子ちゃん、えらかつたのね。皆でほめてあげましょう」パチパチと友達から賞讃の拍手が湧く。T子ちゃんは如何にもうれしそうにここにこしている。次の日連絡帳を順にあげてみると、おや、S夫ちゃんもY子ちゃんも母から連絡がある。「S夫はお夕食のおぜんごしらえをしてくれました」「Y子はいつもはあまりいきたがらないのに、今日はよるこんでおつかいに行つてくれました。そして、連絡帳に書いてとしきりに申します」このようなほほましい記録がかわるがわるに頁をにぎわす。

「今日はM郎ちゃんにお当番さんになって頂きましたら、とても一生けんめいお手伝いして下さいましたから、お家でもおほめ下さい」という連絡を幼稚園からする。次の日、M郎ちゃんは一日中うれしそうである。きつとお家でほめられたのでしよう。その行動が目に見えて潑刺としている。

言語表現の不活潑なN子ちゃんのことを心配した家庭からの連絡があった。そこで相談し合い、園内で、Aの先生からBの先生へ、Bの先生からCの先生への連絡を、この子にしてみらした。簡単なおつかいを言葉でいうようにしたわけである。すると、声は小さいけれど意味の通じる伝達ができた。そのことを、家庭に知らせる。家庭ではN子ちゃんをほめた。これを数回くり返して続けた。N子ちゃんは次第に自信を得てきたようである。言語活動が急には活潑にならないけれども、話したそうな目の輝きが見えてきた。もう一息！と思う。

「せんせい、何かいてるの」と寄ってくる。「あしたはおやすみですってかいているのよ」「そんなのやさしいね、ぼくにもかかしてよ」「そうひとりでかける？」「かけるさ。」書きたいという子供たちに鉛筆を渡す。暫くしてから連絡帳をみる。たどたどしい鉛筆の運びで紙一ぱいにかかれた大きな字、はじめの方にひとかたまりにかいてある字、逆字もある。字のかきはじめ。これをいつかこの子供達が、大きくなっって見るときもこよう。就学前のひととき、感慨無量である。

(5) そのあとに

入園時に各保護者と連絡帳の目的、使い方についてゆっくり話し合った。もし、私達の幼児期の記録が今に残っていたら、先生による記録、父母による記録、はては幼い自分の記録が一つのノートに納まっていたとしたら。父母に対する感謝の気持、先生に対する親近感がよみがえり、或いは、自分の子供に対する教育観の再認識などに役に立っていたのではあるまいか。もとよりこれは保育者にとっても、保護者にとっても一方ならぬ大仕事であるとは思ったが、このような気持で始めたのがもう丸七年にならうとしている。幸い、今まで各保護者の熱心な支持を得、先生たちの真剣な協力を得て各家庭に思わぬ感謝をいただいている。

忙がしい家庭の主婦として連絡帳を開いたひとときを、子供の教育について考えることが出来て如何にもうれしく、感謝しているという母親。

常日頃、家庭教育は母に任せ、学校に上。たら学校任せであった父親が、下の子供を幼稚園に連れてからこの連絡帳に興味をもち、とうとう丸二年間休まずに子供の記録をして下さったこと。

父、母がかわるがわるに、子供について、或いは親としての悩みやよろこびを書き綴つて下さったこと。

連絡帳が新しくなるたびに、第一頁に愛し子の写真をはり、心のこもったよびかけの詞が書きつけてある。それを読んだ時は思わず胸一杯になつたこともある。

「Oちゃんが一番大事なものは？」と聞いたとき、「お人

形「電車」とか答えた中に、「れんらく帳」と答えた子供がいた。その父親も母親も熱心に記録を続けて下さっていた。あの子が学校へあがって二年目に父親がなくなった。連絡帳の筆跡が目に残る。

一年、二年、と続けて記録されるノートは数冊に及ぶ。この重ねられたノートを見た時、幼稚園での生活が無意味に過ぎられなかったというよるこびがしみじみと湧き、再びかえりこない幼児期を大切にしたいとあらためて思う。

(6) その反省

当園で行っている連絡帳のあり方についても幾多の御批判はあると思う。毎朝、子供のもってきた帳面を全部開けて連絡を読み、急いで返事を記入するとき、至急な印刷を朝貼る場合など、時間と手がかるとほしいとしみじみ思う。



母の会にのぞむ

秋 山 ち え 子

私は仕事の関係上（NHK、婦人の時間、「私の見た事、聞いた事」）旅行に出かけることが多いが、その旅先でよく感じさせられ

保育カリキュラムを、避のはじめに連絡しておくことも考えられる。これはしかし、家庭がそれ等の先入観で子供に聞いただすことの害をおそれて現在はやっていない。然し、計画だった保育内容を事前に通知しておくのも、望ましいことである。

また、派生的なことではあるが、連絡帳による連絡の徹底教育に関する諸問題の解決などがものをいって、母の会のあつまりなどでの発言が活潑に行われないうった現象がみられることなどについても、今後更に検討してゆくべきであると思う。

以上の反省も加えて、幼稚園と家庭の連絡につきお互いに研究し合い、よりよいものに進めていきたいものである。

（渋谷鷺谷さくら幼稚園長）

るのは、日本の女の人の社会的訓練の乏しさと云うことである。

之は、私が今更とりたて、て云うまでもなく、色々と云いふるさ

れたことだが、どうも、一向に改められてはいない様に思われるのである。

もっとも、社会的訓練を身につけると云うことは、そう簡単に出来るわけではないし、また、社会的訓練の乏しさと云うことは、女の人より、もっと、男の人について云われなければならないことでもあろう。

疑獄と云う様な大きな問題から、お花見の酔っぱらいに至るまでどこにも、その実例はころがっている。しかし、之等の人々の社会的訓練となると、問題は複雑になってくるので、常識的な、母と子の場合を考えてみたいのである。

四月上旬、京都に行ったが、その時も、こんなことがあった。旅行シーズンのこととて、発車の大分前から、もう座席は満員で横浜を過ぎる頃には、通路を歩くことも出来ない程の混乱ぶり。その夜行列車の中での出来事である。

五、六才の男の子と、二、三才の女の子を連れた母親が、子供を隅によせれば、充分、三人がけも出来るのに、そんなことにはおかまいなく、子供を一人々々の席に広々と坐らせ、そればかりか、大きな荷物を置いて、座席を占領していた。

立っている人が「そこは空いているのですか」と尋ねると、「人がぎまぎます」と云って、一向に荷物をどけようとはしないまま、結局

その席には、誰も現われずに、過ぎていった。

小田原近くなると、上の子供が、眠りはじめたが、その母親は、いそいそと荷物を片づけ、そこに子供を長々とねかした。

そして、それを注意した人には、「私は、早くから並んで、この席をとったのだ」とか、「女だと思つて馬鹿にしないで下さい」と反対に喰つてかかる始末であった。

之に似た光景を、私はよく見かけるのである。

なるほど、母親である以上、自分の子供は大切に、可愛いものに違いない。

少しでも、子供によくしてやり度い母親の気持はよくわかる。

そうかと云つて、自分の子供だから可愛いと云う母親の本能的な愛情が、やがて、自分の子供だけが可愛い、自分の子供だけ幸福であつたらいいと云う。利己的、排他的な感情となつてくることは、決してゆるがせには出来ないことと思考するのである。

之は、社会的な訓練の乏しさと云うよりも、常にせまい家庭や、家族の中へのみ押しこめられ、閉ざされた生活を強いられてきた。日本の社会的な機構が、女の上につきみつけた「しるし」と云えるだろう。

この小さな一例は、社会の中に、自分を置いて、その複雑な関係の中で、広い視野を持つて物を見ると云うことが出来ない、精神

的な「かたわ」の、女の姿を象徴している様な気がするのである。

前置きが長くなってしまったが、話を、本論に移してみよう。

五月の声をきく様になると、新しく入園した幼児も、少しづつ、幼稚園の生活環境に馴れてきて、先生も、母親も、ホッとすることだらう。

この「ホッ」と、しかたが問題で、大体の母親は、子供を、幼稚園におくりこんでしまえば、何もかも、万事解決と、救われた様に考え勝ちだが、この「ホッ」とした機会を、ぜひ「母親のあり方」について、反省する時間としたいものである。

先生方も、幼児の保育と同時に、母親の教育も考え、母親の目や心の角度を、色々と、精神的に調整することを忘れてはいけないと思うのである。

「うちの子」に集中していた焦点を、少しづつ大ぜいの子供の上にもむける様にしたいのである。

女性は、子供の誕生と共に、母としての出発があった様に、子供の入園と一緒に、母の入園があると思っていけない様な気がする。

幼稚園時代の子供は、精神的離乳期にあたってしているので、母親の健全な精神的母親を必要としているのである。

そこで、幼稚園では、母と子を切り離れた保育と云う様なことは

考えることが出来ない様に思っているのである。

それが、一般には、子供が幼稚園に行く様になると、「之でや」と家の中が静かになった」と云う様な声をきくのであるが、この精神的離乳期を慎重に扱いか、どうかによって、子供達の一生を支配する、精神的な健康と、不健康の大本となる根がはられることを思えば、もっともつと母親の自覚が必要だと思ふのである。

赤ん坊の離乳期が、大切にされたのに比べると、少々、精神的離乳期の方は、お粗末に扱われ過ぎていないだらうか。

愛児の幸福を、精神的に守ろうとすれば、よりよき精神的母乳が考えられなければならないが、そのためには、母親が、もつと、見聞をひろめ、社会的な教養を身につけなければならないし、母親の社会活動も必要になってくる。と云っても、急に、本を沢山買った、見学に行ったり、映画を見たり、講演会に行くと云う様なことは、いいことで、必要だと肯定しつつも、今の家庭の状態で、なかなかむずかしいことである。

色々の条件を考えた時、やはり、母親の社会的訓練、社会活動の中心は、母の会や、P・T・Aが一番適している様に思われる。そこで、「母の会」のあり方として、二つの要素、つまり、その一つは、幼稚園そのものを、よりよくするための協力、もう一つは、幼児と共に入園した母親の社会活動の場として、まず母の社会的訓練

をすると云うことを、考えなければいけないと思うのである。

幼稚園の「母の会」は、小学校のP・T・Aが（親と教師の会）B・T・A（ボスと教師の会）と呼ばれる存在になりつつあるのに比べて、遙かに純粹性を持っているが、それでも、批判的に見るならば、今の、幼稚園の「母の会」は、先にあげた二つの要素の中、先の方の、運営面に協力させられることに、比重が重くかかっている様に思われる。

増築をする、ピアノを購入する、遊び道具を揃えると、その度に寄附集めやら、廃品回収、催物等々と追われて、またたく間に、一年なり二年が終っている様では、よい精神的母乳等は望むべくもない。

しかも、この様なことだけが、母の会の大事な仕事として進められていくと、それは、特定の役員や、委員が、応接室等で、友誼をあたためたり、冷したりしている様な、かたよった母の会になってしまつて、沢山の母親は、依然として客観性や、社会性を持つことの出来ないままに「かたわ」の榮養の精神的母乳を子供にあたえつづけることになるのである。と云つて、母の会は、教養講座をひらき、母親がノートと鉛筆を持って、メモをとればよいと云うのではない。

数々の教養講座も勿論結構なことである。それから、母と子と先生が、皆で楽しむことの出来る運動会、学芸会、誕生会等は、母親の社会的訓練には、最適と思われる。

しかし、この様な一年に何回と云う華かな行事の他に小さい寄り集り、例えば、組単位の「母の会」が開かれたり、地域別の小さな集りが開かれることが、もっとあつてもいい様な気がする。

大ぜいの人の前で、発言することの苦手な母親も、十人とか、二十人位の少人数になると、案外話が出来るものである。

その小さな集りで、お互いに、自分の子供の教育についての悩みを話しあつたり、他の多くの母親の経験をきくこと等、問題を出しあつて話しあうことで、自分の子供を愛する気持を、他人の子供にも及ぼすことの出来る母親になる訓練が出来ると思う。

つまり、母親に一番かけている、自分の子供を客観的に見る習慣も生れてくるのである。「母の会」を考える時、幼稚園の運営面の片棒をかつぐだけの、片よったものにならない様に、まず気をつけることが、目下の急務ではなからうか。

（NHK婦人の時間担当）



幼児グループの

研究メモから

東 安 子

私共の幼児グループは、東京女子大構内の東隅に近い小さな組立住宅の事に集ります。恰度4年程前同窓会からの提案で週二回、心理学の実験と観察の為に近所の同窓生の子供さん達に集つていただいたのがはじめでした。ですから当時は、ねずみを飼う為に造られた小舎の床にむしろを敷いて、ハンドカスターネットを拍子とりながら唱歌を教える位が精一杯の教育活動で、あとは殆ど自由遊びをしていました。先生といつても、研究室の仕事をしていた私と、二三の熱心な学生とで、皆殆ど幼児教育の経験がなかつたので、教育するよりも先ず自由な状態にある子供達の気持をありのままに捉える修練をしようと思つたわけです。そのうちに追々実験設備も整い専任の先生や、卒業した学生でそのまま先生として残つてくれる人も出来、ピアノや蓄音器、砂場、すべり台などもそろい、子供の数も増えましたが「先ず自由な状態でよく観察して」という態度は何かしら伝統のようなものになつて残つています。実験の為のグループという性質上どうしてもそうなるわけですが、教えたりしつづけたりする前に先ず一人々々をよく知るとういう心構えの先生を持つことは子供達にとつても決して悪いことではな

いと思つております。たとえば、同一の叱り方しつ方が、子供によつて違つた受取られ方をすること、或る子供には薬が効き過ぎて、萎け縮ませてしまい、又別の子供には全然効力がなく聞き流されてしまう事があるのです。こういう事を心に置いて、夫々の子供が無理なく、強制されずに自由に遊んで集団の落伍者とならないで感情の安定した発達をとげよう行くように、いじけやひねくれの種子を残さないように、という事を保育の目的としたのです。

さてひとりひとりをよく知る為には、私達が度々試みる「実験」もなかなか大きな役割を果してくれません。実験といつても別に特別な装置などを持ち出すわけではなく普殺の観察と本質的には変わらないのですが、子供が行動する場面条件、いわば舞台を、必要な事柄を知るのに都合のよいようにこちらで準備するのです。そうすると、舞台の条件を変えるのと子供の行動がどう変わるか、又同じ舞台でも子供によつてどのように行動の仕方が違うかということがわかり、子供の心理を知る上にも大も、ひいては人間一般の心理を知る上にも大

きな手掛りを与えてくれるばかりでなく、ひとりひとりの子供の傾向や状態をも端的に示してくれるのです。

私共が今迄行つて来た実験は、フラストレーションの研究が主になつています。フラストレーションというのは、何が思うように行かない場合のことです。叱られた場合、やつている事の邪魔をされた場合、競争に負けた場合、欲しい物が手に入らぬ場合などすべてフラストレーションの事態であるわけです。そこで一概にフラストレーションといつても場合によつていろいろな行動が生れてくる筈だとは誰でも考えるでしょう。ではどんな行動が？ ということになる、偶発的な観察だけに頼つていたのでは不安で、実験が必要となつて来ます。この点に関して充分に研究が進んだならば、「叱つていい場合と悪い場合」「感情の意味」「幸福と不幸」あるいは、「健全な精神」という事柄についていろいろなことがわかってくるでしょうが、それはまだまだ将来のことで、現在は、土台から、地道に積んでゆかなければならないのです。

実験を進めて行くと、はじめにねらつた結果の他にいろいろ思いがけない事や、面白い

事が起つてきます。そしてそれぞれが又ひとつと研究課題になつて来ます興味のある場合もあれば、個々の事実を追う事だけで際限もなくなり溜息が出るようなこともあるのです。例えば、フラストレーションの事態には攻撃的な行動が付きものだという理論に基いて、次のようなことをやつてみました。それは、小さい部屋に子供を呼び入れ面白い玩具(子供の好きなもの、例えば男の子には汽車、電車、女の子にはお人形とか、ままごと道具)を与える、やがて夢中で遊びはじめますが、その最中に玩具をとりあげてしまうのです。残酷なようですが、子供の日常生活に於ては似たようなことが始終おこつています。だとしたらそういう事が子供にどんな影響を与えるか、客観的にくわしく観察して正しい知識を持たなければなりません。ですから勿論漫然ととりあげるのではなく、いろいろなとり上げ方を区別し、別の子供にとられる場合、先生が命令としてとり上げる場合、他の大人がいきなりとつてしまう、いわば不当なとり上げ方をする場合というように諸種の方法で行い、部屋の壁にとりつけられた片側鏡(こちらからはただの鏡に見えるけ

れども向う側からはこちらの様子がよく見えるようになつて(鏡)の向う側の観察室で観察者が記録をとり、その経過は更にテーブローダーで録音される仕組になつています。この実験の初めの意図は、子供が怒り出すことを前提にして、怒つたあとどうなるかをみるのがねらいでした。ところがやつてみると痛快な位ひどく怒り出して実験者に打つてかかる子供もいますが、一方なかなか怒りを表わさない子供もいます。更に怒らないといつてもいろいろで、「じゃあ、一寸貸してあげるわね、替りばんこにしましょう」というように建設的な解決を持ち出す子供もいます。つまらなそうに黙りこんでしまう子供、場面を逃げ出す子供、何も感じないかのように見える子供等々実に千差万別です。子供の「たち」だと云つてしまえばそれまでですがそんないろいろな「たち」を形成する条件は何なのか、どういう「たち」が望ましいのか等々と考え出すと実験は暗礁に乗り上げた形になつてしまいます。それに、実験場面で怒らない子供が生来温和なのかというとも必ずしもそうではなく、先生にとり上げられると何の抗議も解決の努力もしようとしない子供

には寧ろふだん弱いものいじめや告げ口などが多くて問題があると思わせるような子供が含まれています。目上の人のすることなら不当な取扱いを甘受する「たち」がどういふ人柄を形造るかわかりませんが、アメリカで行なわれた同種の実験の結果に比べると、どうも一般に日本の子供の方が陰性な反応が多いようです。正当な発散をさまたげられた怒りは、それならどうなつて行くのでしょうか。それとも怒りがもとと生れてこないこともあるのでしょうか。そんな事を考えて、今度、一つ怒るうらにも怒る相手がないようにしてみようと思ひました。その為には、やはり面白い玩具で夢中になつて遊んでいる時ちよつと室外に呼んでその際に天井裏から網を下して玩具を手の届かない処に吊上げてしまします。この方法は子供がすぐにからくりを見破るだらうと思つてあまり期必していませんが、驚いたことに一人として、外に出ている間に大人が何かやつたと考えた者はいませんでした。大抗の子供が「おや？」というようにまわりを探し、その玩具が天井に上つているのを見つけると先ず大笑いを始めます。この実験では2人宛組にしてやりまし

たので、2人が顔を見合せて笑つたり不思議がつたりします。汽車がスーツと壁を走つてあそこまで上つて行つちやたんだらうか」とか、「お人形ちゃん、下りていらつしやいよ」と呼びかけたりして、段々焦々して来たり、大人にとつてよとねだり出したりします。それでも知らん顔していると地団駄ふんだり、身体を揺つたりしますが、りという形にはならないのです。こうして「怒る相手が無い場合の反応」に何が出るかと、期待していると思ひがけない結果に立ち到りました。とうとう怒る相手をつくつてしまつたのです。「誰がやつたんだらう」「神様かも知れないよ」「そうだ神様だ」だんだん声が大きくなつて「神様つていやだなあ」「神様のバカヤロー」「神様のバカヤロー」これで幾分気がすんだのでしようか、二人は諦めて別の遊びにとりかかりました。

こういう風に、何かに転嫁してでも不満のはけ口を求めようとする傾向が認められる以上、それが表出されず、又別の代償の犠牲も講じられずにわだかまつている事は、心にもからだにも有害だと思われれます。怒りたくなる場面では、怒りを表出してしまふ子が、後

できつぱりとしていたり、当然腹の立つような場面で、いやに素直に云う事をきいたりする子が、いちいち実験者の顔色を見て警戒的に行動していたりするのに気が付きました。所謂よい子として通つている子供に、大人の目にうつりのよい様に仕立てられ、無理をしている子供があること、こうして抑えられた不満は、何時か、もつと正常でない形で、曲げられて現われはしないかと案じられ、子供の行動を、一人々々の自然の要求に基いてよく理解しなくてはならないと痛感しております。

(東京女子大講師)

(16頁より)「経済的負担が重過ぎる、にもかかわらず、一日の幼稚園に行く時間が短か過ぎる。この様な事では何故に幼稚園へ行くのかわからない」との意見は、親の幼稚園に対する希望と、幼稚園の立場との相違が感じられました。

その他「父親、母親に対する教育と申しますか指導をお願い致したいのです……(会社員)」「わけへだてのない様にお願ひいたします」等の希望がありました。

(お茶の水女子大学、児童学科、
幼児教育研究会)

グループに入れない子供



出席者 (発言順)

平井信義
堀合文子
松村康平
水原泰介
及川ふみ
菊池ふじの
津守真
富平美喜

平井 今日ではグループに入れない問題児をとり上げました。此の子供は、二年間幼稚園で保育して、昨年四月に小学校に入った子供です。初めに、此の子供がグループに入れないという例を、幼稚園で二年間受け持たれた堀合先生から、簡単に話して頂きますよう。

グループに入れない子

堀合 この子供が始めて幼稚園に来たのは、一学期の途中でした。と云いますのは、四月中は殆どお休みをして、その子が入ってきた時は、他の子供達同志は既に仲よく遊び出していた頃でした。それが、この子供が集団生活になじめなかった一つの原因だっただけです。そして、入園した当時など子供達がやって来た時に、いつまでも一人ぼっちで離れていました。多分、グループに入りたくないという欲望がありながら、友達に受け入れられなかったのでしょうね。五月一杯は皆と遊べず、唱歌も歌えず、一人で何かやっ

ていました。

平井 無理に皆の中に入れようと試みた事はありませんか。

堀合 仲間に入れようとして無理したことはありませんが、一人ぼっちでやっていることをやめさせてよんで来たと言うことはありました。でも中に入っても勝手に絵本を読んだり、お仕事にしても一学期中はほとんど興味を持っていないようでした。

平井 泣くことはなかった？

堀合 ええ、ほとんどありませんでした。お食事の時だけは進んで皆と一緒にいただきました。

平井 その他、此の子供についてとり立てて云うことはどんなことですか。

堀合 初めは始終いつの間にかいなくなってしまうので困りました。で、私はそのお子さんにただ何もしなくてよいかからお部屋の中か園の庭にいてくれればという事を一学期の目標に致しました。

平井 何処に行くんですか。

堀合 お母様の所に勝手に行ってしまうのです。それを追いかけてまわしたのでは他の子供が困りますので、私の見ている所で遊んで

くれさえすればと思つたのです。

平井 家では何んな様だったのかわかりますか。

堀合 はい、家では殆んど外に出たことが無かつたらしいのです。そんなもんですから幼稚園での遊びは、初めて経験した様なことばかりだったのでは無かつたかと思ひます。

つまり何と云いましようか、全く何もかも知らないと云うのですね。そしてお母さんとの結びつきは余り強くなく、また身体が弱かつたので、割合に大事にされていたようでした。遊びの面では、下の幼い子供さんと、女中さんとだけと遊ぶようでした。

松村 つまり、その子は幼稚園に来ても他の子と遊ぶということを知らないで、ただそれらを立って見ていたというのですね。

堀合 ええそうです。

平井 水原さん、今迄とり上げた問題児とは大分違ふようですね。

水原 そうですね。御近所から一緒に来た子はないのでしょうか。

堀合 はい。

平井 どうでしょうか。(及川先生に)保育の外でうろろろしているという、この種の

子は他にないんでしょうね。

及川 ええこれくらい極端なのはちよつと無いですね。

松村 保育の理想は一人一人の子の個性を伸すことにあると思ふんです遅れて入つて来た子にはすでに問題があるから、一般原則として単にわくの中で遊ばせるのは果していいのかな。

平井 その通りですね。そういう点では努力されませんでしたか。

堀合 ええ、その点でもずいぶん気をつけたのです。でも何としても逃げてしまいます。「幼稚園で皆と一緒に出来ない」と幼稚園に来られないのよ」などと、云つたこともありましたが、その言葉が利いているのか否か、反応がないのですね。

松村 子供の楽しさとかいうことがわからないのでしょうね。子供が遊園地などで楽しく遊んでいるのを見た事もないのですかね。

堀合 ええ、でもそのうちにわかつて来たのですが、此の子供の場合には楽しさがわからないのではなくて、幼稚園のいろいろな道具が珍らしくうれしくて仕方がない。今まで盲でいた人が初めて眼が見える様になつた程

人一倍面白いのではないかと私には思えたのです。そういう点で、普通のグループに入らない子供とは一寸違つてゐます。

菊池 そうですね。そう言えば始終幼稚園の庭隅やとり小屋、おじさんの部屋、物置、幼稚園中を歩き廻つていましたね。私はおばさんと呼ばれていましたのよ。

及川 ほんとうですね。私達の部屋にひよこひよこ入つて来て、ずっと見廻しているかと思ふと最後に「ばかやろう」と云つて出て行つたり、朝会つて「お早よう」などと声をかけても、だまつて下を向いて「ばかやろう」とつぶやいているのですね。暫くそれがつづきましたよ。(笑)

菊池 七月頃のことでしたが、皆で遊んでいた時、ピアノの下に小さくなって恥しがっていたときがありましたね。

平井 時にその子が興味をもっていたものは何んだつたと思ひますか。

堀合 外の砂場のつみ木でした。相当たつてから遊べる様になつたのですが。

平井 それほど家で単調な生活だったのでしょうかね。

堀合 私が推察するのに家では禁止されて

出席状態（罹病状態）

	年少組		年長組	
	出席日数 保育日数	欠席理由	出席日数 保育日数	欠席理由
4月	4/20	自家中毒 (入園前より)	10/19	風邪
5月	9/24	疲労	4/24	風邪
6月	17/25	疲労	8/23	疲労
7月	1/8	疲労	3/9	夏休中ひどい 自家中毒
9月	7/16	用心	8/17	
10月	10/26	風邪	11/26	疲労
11月	11/22	皮膚病 (しらくも)	8/22	
12月	11/19	皮膚病	8/22	風邪
1月	20/20	水痘 (お休中より)	14/20	試験のための用心
2月	20/25		9/24	
3月	4/0		9/10	

附記 持病の自家中毒があるので家庭でもひどく用心して寝務するとすぐ休ませていた

いた事が多かったのではないかと思ひますが。

津守 あの、ちよつと質問ですが（手にした参考資料を見て）このプリントに書いてある「発育」の所で、「幼児語が残る」、というのと、「大人の言葉を使う」、というのは何ん

な意味なのですか。

堀合 幼児語が残ると云うのは、家庭の方で書いたものです。大人の言葉というのは、例えば「わかるという」言葉を使うのに「理解する」というような言葉を使いました。確かに少し大人っぽい言葉を使いました。

智能程度

昭和26年7月10日	田中ビネー式	○始めから周囲の事に気が散っておちついて出来ない。種々誘導して少しづつ進行させたが、一つの問題を終りまでちゃんと答える事はない。点数の出しようがなかくとれなかつた。全然わからない事はない。引出して行くところまで出来る可能性がある。○数観念は全然理観できないようだ。
昭和26年11月12日	田中ビネー式	○生活年令 4才8ヶ月 ○智能年令 5才4ヶ月 ○I. Q. 114
昭和26年11月19日	乳幼児簡易テスト	○生活年令 4才8ヶ月 ○発達年令 5才4ヶ月 ○I. Q. 107
昭和27年9月29日	点数式個別智能検査	○生活年令 5才7ヶ月 ○発達年令 6才5ヶ月 ○I. Q. 115

津守 この生育歴をみると一日のうちでも父も殆んど家にいない。とすれば女中さんが余り教育的に望ましくなかったのではないでしょうか。

平井 それとも人の交渉のない家庭だったのでしょうか。

堀合 女中さんにはよくなつていたようでした。

及川 とまかくはづかしがりやで私が出合
うと顔が合わないように横道にそれてしま
うのですよ。お父さんもそんな方で、幼稚園に
いらしても先生にあいさつをなさらずその子
供さんの名前だけをよんでつれていくような
方で、また、お家で、ラジオをかけていても
自分の好きなものでないと消してしまわれ
いのです。御自分の勉強をすることだけ考
えて、そのお子さんの教育の面をあまり考
えられない面もある方なんです。社交的で
ない家庭と云えましょうね。

平井 これまでのお話して、大分、その子
供の姿が浮き出て来ましたね。

津守 この子供を調査すると大分休みが多
く普通の子供にしては休みが少し多過ぎま
すね。病気の為でしょうか。

堀合 とても疲れやすく病氣もすぐするし
家が幼稚園から遠いので疲れるのでしょ
うね。またこの資料の中に書いてある「自家
中毒をよく起すというのも疲れから来たの
ではないかと思うのです。お家でも、一学期、
二期は大分、身体に御注意なさったようで

たが。

幼稚園になれてから

平井 夏休みが終ってから大分落着いてき
たというのですが。

堀合 ええそうです。夏休みが終ってから
は、大分よくなり道具類の扱いでもゆりぎ
などでも、割に皆と一緒に何が出来ようにな
って、運動会の練習の時にも私が「皆と一生
けんめいにやらねば恥かしいわね」とよく云
い聞かせたものです。そんな頃から大分よ
くなってきました。

平井 ほほう。では大分よくなったので
すね。

堀合 ええ、とても良くなったと思います
平井 歌は？

堀合 歌はつまらないのでしよう。皆が唱
っているもうるさいと奇声を発し、耳をふさ
いでしまふ。でも一度歌を唱ったことがあ
って「五月五日は……」という歌を一度うた
っていました。それはレコードで前から知
っていたようです。

平井 「流行歌」などは、

堀合 ええ、流行歌というほどのものでは
ありませんが「何とか何とかがよい」とい

うところだけ知っていました。

平井 とにかく、一年をどうにか終ったの
です。そして一年間の教育を見ると初めよ
りはずつと終りの方が手が上ったのですね。

堀合 ええ、今では殆んど普通の子と同じ
様に手をやかせなくなったのですが、ただ絵
がかけません。

平井 絵がかけないのですか。

堀合 絵を書くのが全然きらいなのです。
でも一度皆が見ていなかった時に、黒板一ぱ
いに大きな「汽関車」をかき、それはとても
無邪気な子供の良い絵でした。それに上手で
した。

津守 それでは今迄絵をかく場合にはし
ゃーとかんたんに書くのだったのですか

堀合 えのぐの時は良くてかんねんに書くの
ですが、クレヨンの場合はおざなりにしてし
まうのですね。

水原 時に熱心に、時におざなりにしてし
まうので一寸見当がつけられませんか。

松村 その絵を見た時先生はどういう風に
しましたか。

堀合 ほめてやりました。

松村 皆の前ですか？

堀合 いいえ、でもその後も一度えのぐをやった時、やはり汽車を上手に描いたので、この時は皆の前でほめてやりました。ほめてやると、とても嬉しそうな顔をしていました

水原 特定の子供と仲よくすることはありませんでしたか。

堀合 好きなお友達はだれと聞いた時「Tちゃん」をさして「この人だい」と云って、終始Tちゃんと仲よしでした。それ以外には特に特定のお友達もなかったようです。

松村 どの程度の交際だったのですか。

堀合 お家との間を遊びにいったり来たりしていただけのようでした。

菊池 ええ、幼稚園の砂場などでは一緒にTちゃんと遊んでいるのは見られませんでしたね。

堀合 でも、結局最後まで、他には友達も出来ませんでした。Tちゃんだけでした。

及川 お当番があったでしょう。その子か番にあたった時はどうでしたか。

堀合 とても責任を感じて、他の子供をさしずして皆に対して組長さんのような姿でやっています。それから小学校をとともあこがれていたんですね。よく小学校にいったり

強したいといっていると云っていました。

平井 では一応幼稚園の過程も最後になり小学校に上る時が近づいてきた頃はとうていどうでしたか。

堀合 大きい組の三学期になるとすっかりおとなしくなっていました。少しあばれてほしい位でした。始めの頃、知らない間にお部屋から出てふらふらとどこかにいってしまったり、お部屋の中をあちらこちらきよろきよろと歩き廻っていた頃を考えますと、何だか可哀想な気もして、私の方が寂しくなるような感じも致しました。皆が、自分のことを、此の頃いい子になったというようになったので、自分でもそり思いこんでいたらしいです

小学校に入つて

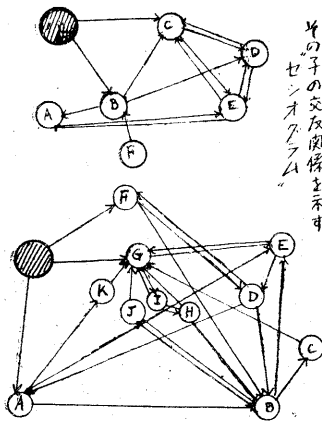
松村 それではこの辺で小学校に行つてからのことを小学校での担任の富平先生に伺いまししょう。

富平 ええ、私が小学校で〇〇ちゃんを受持ったわけですが、小学校に入つてからは、泣く事もないし、じっと坐っていますし、従順なよい子でした。学習の面で、少々呑み込みが悪いと云えるだけです。しかし智能が遅れているという事もなさそうだし、普通より

少し成績が悪いというだけでそんなに幼稚園で問題児となっていたとは全然知りませんでした。この間、その事を聞いて知ったままで……。ただ「好きな友達」と云うので一学期の終りに調査したら、その子を好きという人は一人もいなかったという結果が出たので、二学期にそれで気をつけてみますと誰とでも遊ばず一人ぼっちで椅子に座っているという状態でした。それで最近私もどうしてだろるかと考え始めましたが、はじめは全然気がつかなかったのです。それで二学期にもう一度同じ調査をしましたが、二度ともその子を好く子は居りませんでした。

平井 その理由は何んだと富平先生はお考

その子の交友関係を示す
センオグラム



えですか。

富平 まあ、クラスの中で三分の二が幼稚園から一緒であった子供達ですから、小学校に入ってからもお互にその子と遊ぶことを止めようとしてそのことを云い合うらしいのですね。

平井 そういち子供について、水原さん如何でしょうか。

水原 そんなこともありましようね。親が云えばそれを聞くでしょうし。

菊池 子供というものは皆、大人の様にかげ口を聞くというものでなく、嫌う場合は、或る感が伝わりますね。直感といいますか……。

松村 この資料を見ますと〇〇さんにいじめられたという人が七人ありますね。

富平 でも近頃は「〇〇ちゃんはおとなしい」とクラスの九十九パーセントまでの子供は皆云っていますので、おとなしいということとは確かなのです。でも誰れもその子とは遊ばないのですね。でもその後誰とも遊ばないと思っていましたら三人位とあそんでいました。それに皆に嫌われるのは、その子供がラジオ体操の時など殆ど皆とそろわないので

す。それに声が皆より一オクターブ位低く、そのため大人ぶって聞こえるらしいのです。三学期になっても体操と音楽は普通より成績が低くなりました。

及川 その子供は勉強が好きだったそうですがその後どうですか。

富平 一学期は字が正確にかけなかったのですが、しかし、勉強はお父さんが良く教えていられるらしいので、数学などは他の子供と同じか、それ以上によく出来ます。国語もかなづかいのテストをやったら四十八人中十八番で悪くありません。頭も悪くはなし、危害も加えず、他にしつけの面で手がかかるといふわけではありません。

及川 せんだってお母さんにお会いしましたら未だ大塚駅まで送り迎えているらしいのですね。今はどうですか。

富平 それは良くわかりませんが、今自家中毒で、又一週間位休んでいます。

津守 いろんな時列をつくって並ぶ場合がありますが、そんな時よくその子は並びますか。

富平 並びます。皆のやることは何でも良くなります。

津守 さき程、その子はてれたりはづかしがったりするのですがその後は如何ですか。

富平 少しもそんなことはなく、赤くもならないでちゃんとしています。学芸会の時、一語つづのせりふをいう様にいたしましたら一番大きな声ではっきり云いました。その時ほめましたらとても嬉しそうです。

この子供は何故グループに入れなかつたか

松村 言葉という要素が、友人関係の媒介としてうまくコミュニケーションがいかなくなつたというのが重要なことだと思えます。此の子供の場合、言葉に欠陥がある。

津守 その他の原因も重なっていますが、確かに言葉が原因になっているでしょうね。つまり言葉がお互につき合う上での重要な道具なのに、件の子供は子供同志で意志を交換させるための言葉を十分に操ることが出来なかつた。それから、声が極端に低いというのもハンディキャップですね。

松村 声が小さいとか、低いとかいふのは社会的にさまざまになる要素があるのでですよ。

水原 幼ない時から子供同志と遊ぶ機会を持たなかったということが、今までも皆と一緒に遊ぶ機会を見つけられないことの大きな原因になっているように思います。

平井 そうなるかどうかしても、家庭、父と母の問題があるような気がしますね。前にもいろいろ云われたように。

津守 此の子供は何と云っても、始終幼稚園を休む程体が弱かったということが、マイナスになっているように思いますね。やはり身体が弱いと注意力がつかず、疲労が早く来るので、遊びに入らな持統性がなく、先生としてもおしてゆくことが出来なかったと思うのです。

平井 その点でも確かに件の子は自家中毒というハンディキャップを持っていますね。

及川 普通、自家中毒というのはいつ頃まで続くのですか。

平井 普通は、五、六才までです。だからこの子の場合、じきに治るのではないかと思っています。

津守 それから、此の子供が小学校に入った時、先生から見た場合、特にこの子に問題が見られなかったが、先程の調査にあったよ

うに、子供達の間ではこの子が問題児になっているという点に、一つの問題があるのでしよう。

指導について

水原 こういう子はどういう風に指導したらいいかということですが。

及川 一般的に云ってこりいう子供は、先生がつとめて一緒に遊んであげます。その中に友達の中に入ってゆけるのが普通ですが、この人は遊べない時期が長いようでした。特に入園の時期がおくれたお子さんの場合は、急に馴れた人と一緒に遊ばせないで、先生がこの子と遊んでやっている中に入れてゆくようになるもので、毎年そうしています。

水原 誰か特定の人と仲よくさせて、それをだんだんひろげて誰とも遊べるようになるのもいいでしょうね。

及川 家が近いというような場合はささい合ったりして特定の仲よしが出来ますし、又親同志が知り合った仲の子供さんはじきに仲よくなり易いし、いろいろやってみるのですね。

水原 そういう子供を遊べるようにするのには、例えばシーソなどは一人では出来ない。

二人で共同にしなければ出来ず、又二人が親しくせざるを得ない。そういう材料や器具類で良いものはないでしょうか。道具を仲介として友達を作るのはやりよいことだと思っております。

松村 紙芝居などの場合、右と左に一人づつについて説明するというような遊びではどうでしょうか。

水原 いいと思いますね。

及川 先生が「誰さんと誰さんは今日は何をしましょう」というグループを作ってもいいですね。そんな場合積木などはどうでしょうか。今日はあなたとあなたは一緒に積木をやりましょう、というように……。

水原 それは実験してみました、なかなかむづかしいですよ。共同で遊べないので、すね。

平井 家庭への働きかけ、家庭の教育という点はどうでしょうか。

堀合 私は体のことなどについてよく注意して「出来るだけお休みなくいらっしやい」と、よく云いました。二学期になって家での態度が悪くなり、妹をぶったりするようになつたとお母さんからききました。お母さんが

幼稚園でうんと叱って下さいなどと云われましたが、いろいろ試みて、おだてるのが一番効果があつたように思えました。

平井 家で悪くなったというのは、幼稚園の効果があつた証拠ですね。

水原 家庭への効果を期待して何か特別にその家に云ってあげたことがありますか。

及川 私の様子を年をとってしまふと何でも云えるのですが、畑合さんのようなやさしい方はとても心配して云えないんですよ。

—笑—

富平 母親が保護者会にもあまりいらつしやらないのです。女中さんが二、三回参観にいらした位です。

平井 お母さんが何かわくを持っていられるようです。

及川 自分のかたい教育方針をもっている人には、なかなかいろいろのことが云いにくいこともありますね。

水原 こういふ時、同じ様なケースの子供の母親の座談会をすると、話し合ひで妥協したり、案外効果があると思えますね。三木安正氏の実験がありますよ。

及川 (絵日記を見ながら) この日記はい

つやらせるのですか。

富平 夏休みや冬休みなどにやらせています。

及川 家でやらせるお手伝い場合があるでしょうから、今度学校でやらせてみたら。

松村 小学校で日記を通して母と話してみるのもいいだろうな。

津守 (冬の絵日記をよんで) 此の絵日記など、とてもよく出来ているし、何か特別なセンスがあるのかもしれないですよ。文などうまいもんですよ。

松村 こういふのは青年期に入ってから伸びる子かな。

平井 青年期に入ったら、一つ松村先生に指導して頂くんです。

津守 ではこの辺で終わりたいと思います。どうも有難うございました。

41頁より続く ○

小鳥の金額はまちまちであるが、三月末現在調査では別表の通りである。之等の鳥は近所の鳥屋で手近に購入出来る。

鳥小屋の広さと、収容羽数の関係は、参考として子供動物園の数を別表に記した。

小鳥とは云えない、ニワトリ、チャボ、アヒル、ガチョウの数も、保育施設等でも面白く扱えるであろう。

鳥の個体の良否鑑別も大切な事であるが、之は大変難かしく、詳細にわたつてお話し出来ないが、活潑に活動し、羽の艶が良く、下痢などの為に肛門附近の羽毛がよごれていないものなら、大体健康と見て良いと思う。

小鳥の疾病も、或程度研究されているもの、早期発見が難かしく、発見した時には既に手遅れと云う場合の方が多いため省略する。

○

この様に立体的な絵本を思わせる小鳥舎で小鳥を飼う事は大変楽しい。一つでも多くこんな施設が作られる様切望して止まない。又小鳥舎の近くにでも野鳥への施し物として、水飲器、給餌場、巣箱等を備え、近年極度に減少して来た野鳥を保護していただきたい。そして何年かの後には、手のとどく程の所で餌を無心に食べる所が見られる様に出来ないものだろうか。幼児の生活する所で、そんな情景が画き出されるとしたらどんなに良いだろうか。

(上野動物園飼育課)

教育 實際 指導 研究会

生活経験と環境

催 児童教育研究会
(お茶の水女子大学教育学部附属小学校内)
 教育学研究室
(お茶の水女子大学教育学部内)

主 幼児教育研究会
(お茶の水女子大学教育学部附属幼稚園内)
 協 児童研究室
(お茶の水女子大学家政学部内)

趣旨

学習と環境の問題が、学校教育において重要であることは、従来から認められていましたが、特に最近になって、教育環境学の新しい理論や進歩的な教材教具の出現により、われわれにとって、いっそう切実な問題となって来ました。教育実務家として、真剣に考えなければならぬことでもあります。このときにあたりこの問題について研究の實際を広く教育実務家に公開しあわせて研究協議を行いたいと思ひます。
 本研究会の趣旨に賛同されて、多数の方々がお出席くださいますよう御案内申し上げます。

日程 昭和二十九年六月二、三、四日(詳細別表)

講演及び発表

- 1 政治と教育 お茶の水女子大学長 蠟山 政道
 - 2 郷土と教育 お茶の水女子大教授 周 郷 博
 - 3 人間関係と教育 お茶の水女子大助教授 松村 康 平
- (精神衛生の立場から)

- 4 成長と環境 お茶の水女子大助教授 平井 信 義
- 5 最近の環境心理学 お茶の水女子大教授 波多野 完治

- 1 科学教育と環境について 附属小学校教諭 阿久沢 栄太郎
 - 2 国語教育と放送 附属小学校教諭 大橋 富貴子
 - 3 リズム反応とダンス 附属小学校教諭 古江 綾子
 - 4 社会科学指導と環境 附属小学校教諭 宮地 忠雄
 - 5 造形的表現と環境整備 附属小学校講師 林 健造
 - 6 保育室における先生のあり方 お茶の水女子大学講師 津 守 真
 - 7 描画の素質・環境 附属幼稚園教諭 堀合 文子
 - 8 幼児の体育的经验から 附属幼稚園教諭 村田 修子
 - 9 幼児の生活指導と環境 附属幼稚園教諭 菊池 ふじの
- 全校公開授業
 附属小学校、中学校、高等学校を開放し自由に研究參觀していただきます。
- 研究討議会

(日 程 表)

日	6月4日(金)	6月3日(木)	6月2日(水)	日
会場	幼稚園 中等学校 小学校	幼稚園 小学校	幼稚園 小学校	会場
時間	8.30	9.00	9.00	8.30
	幼稚園の最も重要な教育内容について	幼稚園の研究討議	幼稚園の研究討議	9.10
	幼稚園の最も重要な教育内容について	幼稚園の研究討議	幼稚園の研究討議	9.20
	幼稚園の最も重要な教育内容について	幼稚園の研究討議	幼稚園の研究討議	10.00
	幼稚園の最も重要な教育内容について	幼稚園の研究討議	幼稚園の研究討議	10.10
	幼稚園の最も重要な教育内容について	幼稚園の研究討議	幼稚園の研究討議	10.50
	幼稚園の最も重要な教育内容について	幼稚園の研究討議	幼稚園の研究討議	11.00
	幼稚園の最も重要な教育内容について	幼稚園の研究討議	幼稚園の研究討議	11.00
	幼稚園の最も重要な教育内容について	幼稚園の研究討議	幼稚園の研究討議	12.00
	幼稚園の最も重要な教育内容について	幼稚園の研究討議	幼稚園の研究討議	12.00
	幼稚園の最も重要な教育内容について	幼稚園の研究討議	幼稚園の研究討議	12.10
	幼稚園の最も重要な教育内容について	幼稚園の研究討議	幼稚園の研究討議	12.10
	幼稚園の最も重要な教育内容について	幼稚園の研究討議	幼稚園の研究討議	1.00
	幼稚園の最も重要な教育内容について	幼稚園の研究討議	幼稚園の研究討議	1.00
	幼稚園の最も重要な教育内容について	幼稚園の研究討議	幼稚園の研究討議	1.30
	幼稚園の最も重要な教育内容について	幼稚園の研究討議	幼稚園の研究討議	1.30
	幼稚園の最も重要な教育内容について	幼稚園の研究討議	幼稚園の研究討議	2.00
	幼稚園の最も重要な教育内容について	幼稚園の研究討議	幼稚園の研究討議	2.00
	幼稚園の最も重要な教育内容について	幼稚園の研究討議	幼稚園の研究討議	3.00
	幼稚園の最も重要な教育内容について	幼稚園の研究討議	幼稚園の研究討議	3.00
	幼稚園の最も重要な教育内容について	幼稚園の研究討議	幼稚園の研究討議	4.00
	幼稚園の最も重要な教育内容について	幼稚園の研究討議	幼稚園の研究討議	4.00

幼稚園の教育内容について最も重要な諸問題について
 司会 附属幼稚園園長 及川ふみ
 指導 松村康平 水原泰介 津守真
 お茶の水女子大助教授 水原泰介
 お茶の水女子大助教授 津守真
 お茶の水女子大講師 津守真

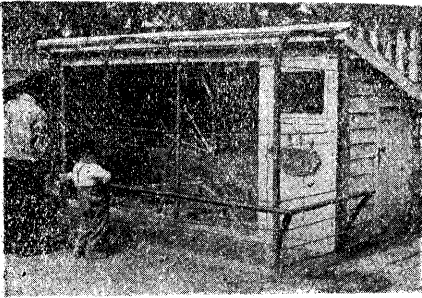
幼稚園、小学校、中学校、高等学校の

申込場所 期 限 申込場所

教員及び一般希望者
 三〇〇円(研究会要項代を含む)
 会費は当日お払込下さい。
 六月一日(火)まで
 東京都文京区大塚町三五番地
 お茶の水女子大教育学部附属幼稚園内
 幼児教育研究会宛

小鳥の飼育 と 幼児生活

遠藤 悟 朗



上野動物園の一隅に子供動物園がある。子供動物園には誰でもが知つているおとなしい動物達がいて、小さな子供さん達のお友達になつてゐる。その子供動物園の中に小鳥の家がある。写真の様に舞台装置を思わせるパツク、鳥屋の店先で良く見かけるカナリヤ、ジュウシマツ、セキセイインコ、ブンチヨウ、ウズラ等がとびまわつてゐる。

春先など巣を作るのに忙がしいジュウシマツ、作つてゐる側でその材料をとつて自分の巣を作るセキセイインコ、こぼれた餌の殻の上に卵を産むウズラ、忘れた様に時々歌い出すカナリヤ、色々な事件はあるものの、そんな小鳥達の生活をながめる事は楽しい。

○ 専門的な飼育をするためには、籠で一つがい宛飼育しなければならないが、広い所で何種類もの小鳥を飼育する事は、子供達の親しみを増すのではないだろうか。

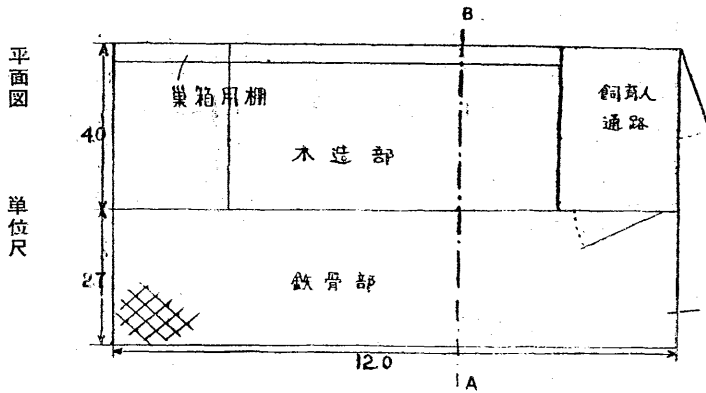
又小鳥舎の構造、収容羽数、種類の組合せ餌の質と量が適當であるならば、狭い籠を幾つも使つて飼育するのと問題にならぬ程手間がかからない。よく幼稚園保育所などで動物

を飼育する際、この手間の関係で動物に充分な事が出来ず失敗してゐることが多い様に聞いている。そんな意味合でも手間の事を大きな要素として考える必要があると思う。

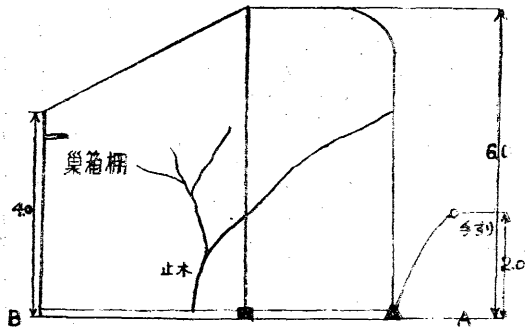
又広い事その他の理由で鳥の専門家が、虚弱な鳥の飼育や巢引に、この様な籠を用いてゐる事を考えても、飼育に好都合な条件が具つてゐると見て間違いない。

この様な小鳥舎を普通「雑居籠」と呼んでゐる。

幼稚園保育園等に小鳥の飼育をおすすめするに当り、この籠の事を今少し詳しくお話し見たいと思ふ。写真に示された子供動物園の小鳥の家は、殆ど古材を使つたのである。木造部は二つの動物舎でそれを継ぎ合せて、前面の鉄骨部を作り、ペンキを塗つて仕上げたら、見違える様な小鳥の家が出来上つた。書類に小鳥の家丈経費が分けて書かれていないので詳細は不明だが、概略を近頃の金額に直して記すと木造部二、〇〇〇円、鉄骨部一、〇〇〇円計一、〇〇〇円である。特殊な例で、さ程御参考にならないとも考えられるので、全く同じものを新規に作つた場合の経



立面図 単位尺



費を附門すると、木造部五〇、〇〇〇円鉄骨部一七、〇〇〇円計六七、〇〇〇円である。バツクに絵を画いた為、塗装費も相当な額でこの中に含まれている。

何もこの小鳥の家が最良のものと言わねばならないから、幼稚園保育園などでは物置なり軒下を上手に使い、バツク等も、子供達の

手によるハリ紙細工等で作れば、経費も動物園のもの程からならぬだろうし、簡単で面白いものが出来るのではないだろうか。

唯場所選定に当り、日当りと通風丈は充分考慮していただきたい。

又立派な小鳥舎を持ち、現在利用されていない所では、御検討の上一刻も早く活用される事を切望してやまない。

備えつけて置きたいものは、餌箱、菜ざし水飲器、巣箱、止木(トマリギ)で、床は厚目に砂を敷いて置く。

餌箱は附図の様なもの私はトタン板で作リペンキを塗つた。始めは空缶等をも利用し何ヶ所にも分けて置き、鳥が小屋に馴れるに従つて次第にその数を減じ、図のもの二ヶを使用する様にした。水飲器は活花で使う白色水盤二ヶを使用、一ヶは菜ざしとして小松菜を草むらの様な形に活けた。菜ざしも餌箱の様に始めは空缶等で各所に置く様にしたが間もなく水盤一ヶのみにした。止木は枝を適当に入れたわけだが、鳥が枝に止つた時、瓜が枝を一まわりして向い側の瓜にとどかない

程度のものが良い。

餌箱、菜ざし、水飲器等も、幼稚園保育園で作る粘土細工の素焼を用いたりすれば、子供達の楽しさが倍加する事と思う。

○

話が前後したが俄についてこれから述べる。上に記した鳥は、総べて雑穀と菜を与える。この様な鳥の事を播俄鳥（マキエドリ）と云い、主として禾本科類そのたの草の種子を食し、蕃殖期には虫題を食べるものが多い。我国で用いられる俄は、（ヒエ）黍（キビ）粟、青菜（小松菜その他）を主食とし、副食に少量の花（エゴマ）菜種子、種類によつては麻の実を与える。その他時に応じゆで卵を半分切つて与えたり、果実（リンゴ、西瓜等）をつつき易い形にして与える事も必要である。

特に青菜は食する範囲で多く与えるとい。菜の代用として、はこべ、おおぼこ、たんぼ等の野草を用いる事もある。

今上記鳥類一日一羽宛飼料給与量、一升宛金額を記すと附表の通りである。一羽宛飼料摂取量は少いので不正確をまぬかれない。雑

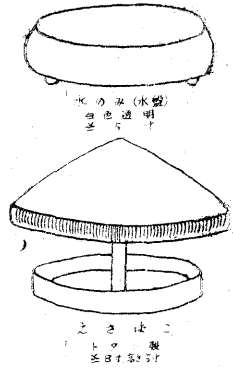
居籠で数種の鳥を飼育する際には、総羽数飼料の目量より約二―三割方多く与える事が望ましい。

なおこの様に、何種類かの鳥を飼育していると、交つた鳥の寄贈を受けたり、野鳥が傷を負つて迷込んだりする事があるかと思う。

野鳥の場合飼育する時には、狩猟法により許可証を持たぬといけない事になつてゐる。こんな時には先ず関係事務を取扱う役所に連絡して指示を受ける必要がある。東京では、都経済局農林経営部林産課が事務を取扱つてゐる。だが急場の傷の治療。空腹だろうから何か食べさせたいと誰しもが考えるのではなからうか。そんな場合、鳥の名前を知ると同時に、俄の事も一応知つて置く必要があると思ふ。多少の例外はあるが、嘴で判断する方法が簡便で、ウグイスの様に細長いものは虫類を多く食べてゐる。飼育するには摺餌（スリエ）虫類を多く食べる鳥の為に、我国で考案された配合飼料、鳥の種類により原料配合比を異にする）を与える。セキセイインコやブナチヨウの様に、太くて短かい嘴のものは播

附 表

	1羽宛飼料日量表						1つが 宛 金 円	園 容 数
	粟	稗	花	黍	青菜	菜 子		
カ ナ リ ヤ	1	2	1		1	1	4	
ジュウシマツ	1	2		2	1	400	10	
ブ チ ョ ウ	1	2		2	1	1,200 2,000	5	
セキセイインコ		5		3	2	800 1,000	10	
ウ ズ ラ	1	3		1	5	800	6	
1升宛金額	円	80	60	180	150	—	計	35
1升の目方	匁	295	235	225	305	—		



小鳥の家の鳥は全部播餌鳥で、餌も腐敗したりするおそれがない。だから一日に何回も餌を与えたり、戻すぎませ返してやつたりする必要はない。出来得れば毎日時間を定め、鳥達が残した殻皮を捨て、新しい餌を足してやる。小鳥は上手に殻を外し、中丈をきれいに食べる。餌箱を一見すると、沢山餌が入っている感じがするので、餌を与えず、ひどい時には飢死させてしまう例も多い。殻皮を捨てる場合、息で吹くと飛ぶから行い易い。水盤の水は飲料の他に、水浴用にも用いられる。出来る丈清潔に保つ事が望ましく、水換えは朝が良い。

夏直射日光が当りすぎる場合、小鳥は口を開け地面にぐったりしている事がある。その様な時は暑すぎるのであつて、一部分通風のきく日除(よしず、すだれ等)をしてやる事が望ましい。又カナリヤは蚊に弱く、爪のつけ根をはらす事が多い様に云われている。野外にある小鳥の家でも当然起るべきだと思つていたが、現在の所被害は少い。若し被害が多かつたら、蚊や、薬剤散布、等を行つたら良い。

極寒期には巣箱を整理、更に小屋の外側に布などで風除を夜間並びに特に寒い日のみにしてやる事が必要である。

春先の蕃殖期にも巣箱は必要で、巢材として藁等を与えてやると、強い鳥はあの愛らしい雛をかえし、小鳥の家は一層にぎやかになる。巣箱は年も取外す必要はないが、嘴でこわす事があるから、時々予備の中のと交換すると良い。

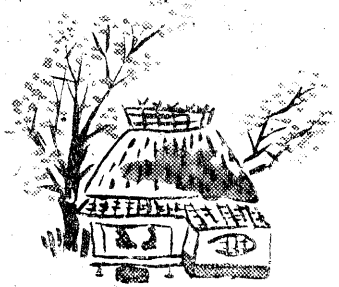
写真でお解りと思うが、小鳥脱出予防の目的で扉は二重にして置くのが良く、先ず第一の扉を開けて入り、その扉を閉めてから鳥の居る室に入る様な習慣をつけて欲しい。又出

終つたら必ず外から中の様子を確かめ、特に金網破損部が無いか注意をする。金網は四分亀甲網で銅製のものが丈夫だが、鉄製のものは痛み易い。しかし現在殆ど鉄製を使い、子供動物園の様に地面から直ぐ金網になつてゐる。小鳥舎は、子供達が何気なく蹴破る事が多い。小さな破れでも脱出、猫、犬の害の原因になるから、特に気をつけて、いただきたい。

部屋の汚れで特に目につくのは、壁(バツク)等につく白い所に薄黒いかたまりのある屎と糞である。月に一度以上大掃除をすれば日々の掃除は、餌の殻皮除去、水換等で充分である。

先きに雑居籠で小鳥の飼育をする場合、手間が少いと記した。これは餌を沢山与える事が出来る事と、汚れが小さな籠に比して目立たぬ事と、水浴、砂浴を鳥が欲した時に自由に行える事等だからだ。小さな籠で飼育する場合、その都度飼育者が面倒を見てやらなければならず、或時は長時間附添ふ必要も生じて来る事があるものである。

(35頁に続く)



いぬはりこ

ある幼稚園の今昔 —— (福井県) ——

松村伊佐武

ある日、私は谷口小ぎくさんにおあいして、私の県では古い歴史を持つている尾上幼稚園の生い立ちについての話を聞く機会を得た。谷口小ぎくさんは尾上幼稚園創立初代の保母さんでことし七十才になるが、そんな年とは思えぬくらい元気の話好きだ。

「幼稚園の先生をした者は、いつまでも気が若くてね。」
 といいながら、アルバムを出して来て、四十年前に写したという古ぼけた写真(幼稚園修了記念の)を見せて、ぼつぼつ思い出話をしていただいた。

尾上幼稚園ができたのは、大正天皇御即位の御大典記念事業と作られたのが、そもそものはじまりでして、あれは大正四年の六月だつたと思います。
 そのころの幼稚園といえは、ホームスさんが経営していた

栄冠幼稚園、それに順化小学校附属の順化幼稚園、その二つしかありませんでした。

尾上とほとんど同時に、常葉幼稚園(東別院系)もできました。私たちの園は西別院の土蔵を改造した建物で、まことに粗末きわるものでした。初代園長は河村倭先生、保母さんは私のほかに齋藤政江さん、この二人でした。河村先生は一年半ほどされて病気になるれておやめになり、そのあと(註1)へ宇野名左エ門先生がこられたのです。宇野先生は大正六年から終戦のちよつと前まで二十六年間、ずつと園長さんをおつとめになつて尾上幼稚園の名をたかめてくださった大恩人です。

宇野先生は巖谷小波先生のお弟子だつただけにお話の上手な方で、子どもたちはいつも喜んで聞きましたね。先生は幼稚園教育に熱心な方で、福井市保育会長、県の幼稚園協会会長

もなさつて、福井県の幼稚園教育をたかめるのにうんと力を
つくされましたね。今生きておいでになつたら、どんなにか
喜ばれるでしょうに。

〔註一〕 宇野名左エ門先生のこと

明治十九年生、通称敬一、俳名者翠福井県武生中学を経て早

稲田大学英语科卒業

福井市北陸中学校、仁愛女学校教員

尾上幼稚園長（自大正六年至昭和十七年）

福井市保育会長、福井幼稚園協会長、福井県児童愛護連盟本
部長

福井県童話協会長（昭、四）

全日有保育連盟幹事（昭、一三）

著書——お伽花束、子供の国、お伽小箱、ここにこ王国等
昭和二十七年九月病没

そのころ保育のし方といえは、唱歌、遊戯、手技、遊び事
など、積木もあつたし、恩物もつかいましたね。特別な保育
用品はフレール館からとりましたが、なるべくお金がかか
らないように自然物を利用しましたね、たとえば葉っぱのよ
うな。

それから今とかわつていゝのは、箸輪並べ、ぬいとり。箸
輪並べというのは、箸や輪を机の上に並べているんな形を作
らせるんですがね。それに——豆細工、むぎわら細工——こ
んなもの今はあんまりはやらぬようですな。

図画は今のようになかんにやなかつたね、クレヨンのように

な便利なものがなかつたからでしょうか、石盤に石筆をつか
つて何でも書かせていたように思います。今の子どもたちは
そういう点でしあわせだと思いますよ。

お天気のいい日はできるだけ外につれ出して自然に親しん
で園外保育をやりました。

第一回の修了児は九十人ほどでしたが、この中に今尾上
の主任保母をしている武鑑ぶかん秀子さんが、そうそうこの写真の
一ばん前列に紋付を着てはかまをはいているこのかわいい女
の子が武鑑さんですよ。そのころはみんな着物の上にエプロ
ンをつけていましたね。

何しろ子どもの数が多かつたので、しつけにはすいぶん苦
勞しましたね。今の教育のし方とちがつて、子どもを型には
めなきやならぬと思つて、時にはとがり声の出たこともあり
ましたよ。

子どもの無邪気で純真なことは、むかしも今もかわりにはあ
りませんね。強いていへば今の子どもはむかしにくらべてい
くぶんませてはいませんか、そんな気がしますが。それには
しかい子どもさんも多いようですな。

尾上幼稚園のマークのこと、今も尾上の子どもさんのエプ
ロンについているあのはりこの犬はすいぶんむかしからつづ
いていますね。あれは宇野先生の保育精神である桃太郎主義
のシンボルですよ。

桃太郎についていつたイヌ、サル、キジはもともと仲がわるいのですが、それが仲よく力を合わせてはたらいたところに目をつけられたんですね。またイヌ、サル、キジは智、仁、勇にもたとえられています。この智仁勇の三つの徳をそなえた子どもをつくりたいという先生の願いがこめられているんですね。

毎年の卒業式には、智、仁、勇の三色別にしたキビタンゴを作つて、折り箱に入れて子どもたちの卒業祝いに出示してね、そして宇野先生がおもしろい童話の一つずつなさつて一つずつ食べさせなさつたあのたのしい様子が今もはつきり目に浮かんできますね。

〔註。〕 宇野先生の児童保育精神は自己の天性を土台として、智仁勇を兼ね備える桃太郎主義を幼な心に吹き込み、そして将来我が国家に役立つ健康で立派な第二国民を養成せんとするのであります。他目には小さな仕事のようにありますが、実際は大きな仕事であります。先生の児童保育には何等の収入が伴わざるのみか、却つて少からぬ犠牲を払つて居られます。是れ先生が子供の世界における唯一の存在として断然光彩をはなつ所以であります。

—— 昭、八福井県「自治と教育」より ——

宇野先生がこうした保育精神に燃えて充実された尾上幼稚園も、昭和二十年の福井戦災によつて灰燼となり、戦後再興したのも束の間、昭和二十三年六月の福井大震災で再び崩壊したが、別院をはじめ関係の方々の熱意によつて現在の園舎

が復興した。また去年はグラランドピアノも備えられ、形式内容ともに充実し、宇野先生当時の尾上幼稚園の輝かしい光彩や伝統が復活している。現在の園長は竜島祐信氏、先生は武鑑さんを含めて八名、園児は三百名を超えている。谷口小ぎくさんの保育された武鑑秀子さんは、この幼稚園に二十数年勤続され、現在なお若い人々に劣らない教育的情熱をかたむけていつも子どもたちとたのしい園生活を送つておられる。これはこの園にとつては勿論のこと、わが県幼稚園界にとつても大きな幸いであり強みでもある。

×

なおついでに福井県幼稚園教育界の現状を附け加えたい。現在わが県の幼稚園は、公立五十三園、私立十七園、計七十園を数えており、年を追うてその施設が増加しつつあることは、幼な児のために大いに喜ばしいことである。

しかもそれぞれの園には、尾上の武鑑さんのように幼な子の成長と幸福を守るために生涯を捧げるような良心的な教師が、孜孜としてはたらいておられることをよく知つている。

このように、わが県の幼稚園教育界は輝やかしい将来を孕んで、堅実な前進を続けていることを申し上げて筆をおく。

福井大学学芸部附属小学校教諭

誤 本誌第五十三巻第四号（四月号）中十三頁最後天津幼稚園長とあるのは、宮澤幼稚園長の誤りです。お詫びいたします。



こ
の
子
供
た
ち
(16)

イーデイス・ウオートン作
松原至大譯

二人の女性

「それは、男の方が、だれでもお婆へになることです」と、ジュデイスは言った。身体を後にひいて、半ばまぶたをつむると、また口を開いた。「恋をするということは、ふしぎなことね。ブランカは、いつも私より鋭いので、『どこか静かなところで、お友だちとでも会うのでなければ、マーティンさんが、あんなに急いでヴェニスを出発する訳がない』って、言っておりました。こうしてあなたのおじやまをするなんて、私、すいぶん馬鹿でした。あなたは、どうしたら、私たちを追いはらうことができて、父と母の争いに、かかわりのないようになさるのか、考えていらっしやるのよ。」

マーティン・ポインは、半ば腹立たしく、半ば急所をつかれるような思いがした。つとそばによって、しっか

りとジュデイスの手の上に、自分の手を重ねた。

「ま、待って下さい。つまらぬことを言うものじゃない。ぼくが考えていることは、どうしたら、君たちが満足するようにできるかということだけです。今のように、君たちがいっしょにおられて、しかもぼくが、君の両親に、よけいなおせっかいをしたのだと思わせたくない。君たちは、全く正しい。それだからこそ、ぼくはおとうさんと、平和になりたくないんですよ。いつか折があったら、おとうさんたちには、君たち子供を、離れ離れにする権利はないということを、話してあげたいのです。それがかなえば、君たちのためには、なによりです。だが、どうしたら、そうされるか。まだぼくには見当がつかない。それで、君をセラーズ君に紹介したいのです。」

予期に反して、ジュデイスはじっと聞いていた。ボインの言葉が終ると、すなおな子供らしい顔をあげた。

「私、あなたのおっしやるとおりに致します。でも、ランチがすんでから、ナニーにチップを連れてきてもらえば、あなたのお友たちに、一層よくわかつて頂けるのじゃないかしら。」

「なるほど。それはよい。」ボインは、心からうなずいた。そこでジュデイスは、二階へ行って、テリーに会ってくれるように、ボインに頼んだ。

テリーに会うことは、だれにとっても、その人の身も心も、ホキータ家の小さな人々の味方にしてしまふ、最も確かな方法であると、ボインも思わざるを得なかった。セラーズがジュデイスに会って、どう思うか、わからないが、テリーに会って、どう思うかは、疑う余地はなかった。

その日の朝、ボインは、かなりの間、セラーズの人生観と、ジュデイスの人生に対する体験との間の、橋渡しをするためには、どれだけの好意があるかと考えてみたが、よくはわからなかった。しかしセラーズとテリーと

の間は、なんの橋渡しもしらないであろう。目と目とが会うと同時に、二人の心は触れ合うであろう。「ランチがすんだら、会わせてやろう」と、ボインは心にきめた。

だが、その日の中に、テリーが山荘へ登って行くことは、望みがなかった。テリーは、家出をした興奮と、旅の疲れと、熱とで、ただ横になったまま、じっとボインを見つめていた。ヒルティナは空気がよいから、自分の身体もよくなるというのが、精いっぱいであった。スヌープが医師をむかえて、適当な手当をしていたので、この病人も平熱に近かった。

「もし父や母が、私たちをころして、おいといてくれさえすれば、ぼくはきつと全快します。マーティンさんはここにいて、子供たちを監督して下さいませんか」

ボインは、ホキータ家の子供たと、両親とのもつれが、うまく解決しそうになるまでは、ここを離れないと答えた。自分が両親にかけ合うことは、確かに必要であるという、テリーは、すぐ賛成して、こういった。

「だから、姉さんとぼくは、ここに來ることにきめたのです」ねえ、マーティンさん、ぼくたちを、また離れにすることは、いけませんね。ぼくもいやです。こんなことでは、ぼくたち、教育なんか受けられやしません。お行儀だって、シニアさんが来てからというものは、子供たちは、すっかりだめになってしまいました。プランカのことでは、おしやれと、おべっかばかりすることを考えていますし、父と母との間がますますとすぐ子供たちは、勝手なことばかりしています。ほんとうの争いになる前からだって、みんな手がつけられなくなっていたのですが。いつかも、ジニーが、バンの横面をなぐりました。それは、あの子が、またプリンスになつてローマの父の御殿に住むんだっていったものだから。自分の名も書けない癖に」

「なるほど。どうにかしなければならぬ。ぼくが、君たちのおとうさん。おかあさんにわかってもらいたい

と思つてゐるのは、そのことです。だが、その間に、君は充分静養しなけりやいけな。ぼくは約束しよう。時が来れば、きつと出来るだけのことをする」

「いいえ、約束なんか、いいんです」テリーは、安心して、頭をまくらにのせた。

ポインは、ジュデイスと丘を登つて行く道すがら、前の晩、疲れと興奮とで、聞くことのできなかつた。細かな話を、かの女から聞くことができた。スコープの打明け話は、いつも陰気で、概念的なものばかりであつた。細かなことになると、職業意識による秘密主義でかくされてしまつた。ポインは、それを押しつけて聞くことを好まなかつた。ところが、人生の特異なところばかりを見るせいか、ジュデイスには、こうした遠慮のいらぬことをポインは知つてゐた。でも、結局、今のジュデイスの話には、格別予期しないようなものはなかつた。いつもの、古くさい夫婦喧嘩であつた。ジニア・ラクロスが、家庭教師のジェラルド・オームロッドに、妙な目付きをしはじめたので、ジョイスは、オームロッドと、いっしよにいなければ、いやだと言ひ出したこと。ジュイスとホキータが、「ファンシー・ガール」のデッキで、ぼんやりしてゐたり、またはいつものお客を集めたりしてゐるのに、オームロッドは、毎晩レンチ夫妻や、メンドイップ公たちと、リドーで晚餐を共にしてゐるのだと思ふとこの元気な婦人は、じつとしてはおられなかつたということ。そしてジョイスは、突然この家庭教師を解雇するように、夫に頼んだということだ。ホキータは、テリーがなすつてゐるから、それはできないといつた。（それはジュデイスも認めていた）するとジョイスは、ホキータと離婚して、オームロッドと結婚するといひ出した。もちろんそれを聞いてホキータは怒つたといふのである。ジュデイスの言葉をかりて言へば、その時、一座が湧きかへつた。オームロッドが、ジュデイスと結婚したいと言ひ出したからである。

「えっ、君と結婚する。みんなの気でも狂ったのですかな。」思わずポインは興奮して、こう繰り返し繰り返し言っているのに気がついた。

ジュデイスは、ほほえんだ。

「私、気はちがいがやいたしません。もう十六にもなりますもの。それに、私は相続人ですから。でも、私が、子供たちを見捨てるとお考えになりやしませんわねえ。それに、私がスペルもよく覚えないうちに、結婚するなんて、おかしいって、テリーは言っております。」

「全くだ。ほくだって、そう思う。」ポインは、腹立たしそうに言った。こんな調子で、セラーズと話し出されたら、一体どんなことになるであらう。

「でも、私にはわかりませんの。えらい人でも、スペルのできなかった人があるって、ジェラルドさんがおっしゃっています。ナポレオンは、スペルができなかつたんですって。それからセヴィナ夫人も。シェイクスピアだって、いつも自分の名のスペルをまちがえていたのですって。」

「ほくとお別れしてから、歴史を勉強しましたな、君は。」ポインが笑いながら言うと、ジュデイスは真剣になつて、

「いいえ。いつか私が、スペルのことで泣いていましたら、あの人が教えてくれました。」

「なるほど、あなたがスペルのことで泣くのは、もっともなことです。テリー君がいうように、もっとと学問をしなければならぬ。」

「それなら、多分、ジェラルドさんと結婚するのが、私にとってよかつたのでしょう。」ジュデイスは、さっぱりとした気持ちで答えたが、「でも、いけません。私が結婚してしまえば、子供たちの世話ができません。」と打

ち消した。

「さあ、来ましたよ」ポインは、いら立って言った。

「まあ、お若い方」セラーズは身体をまげて、ジュデイスの頬にキスをした。うす手の黒いドレスを着て、その金髪が、姉でもあるかのように、ジュデイスの頭髪の上にかかっていたが、セラーズのなんと若く見えること。ポインは、まずそれを感じた。そして次ぎには、こうした挨拶で、親しみを持たされるのには、あまりにもジュデイスは幼な過ぎたということである。

ジュデイスはほほえみながら、セラーズを見た。そしてなにか含んだ単純さで聞いた。

「なにに比べて、若いとおっしゃいますの」

「まあ、あなたが荷わされていらっしやる責任に対して」思いがけない問いだったので、セラーズはとまどいした。

ジュデイスは、まだほほえんでいた。つつましやかな、ほほえみではあったが、ポインは、これはいけないと思つた。

「お世辞をおっしゃって。でも、あなたや母の年配の方ですと、お若いといわれますと、お世辞になります。でも、私、まだ十六にもなりませんの。ですから、私には、当り前としか思えません」

セラーズは、

「あなたのようなお若い方が、わざわざ私のような、おばあさんのところへ会いに来て下さったのですから、ほんとうに御親切と思えます」と、古い逃げ口上を言った。

「ええ、私が伺いたいと申上げたのです。マーティンさんが、あなたが私のお友だちになって下さるとおっしゃいましたし、それに、私にはよい友だちがないのですから」ジュデイスは、ピロードのような目で、セラーズをじっと見つめた。

セラーズの目は、すぐにやわらげられた。

「マーティンさんのおっしゃった通りですよ。あなたさえ宜しければ、私、仲よしにして頂きます。おひるのお食事に来て下さって、うれしゅうございます。それからマーティンさんからお聞きになったでしょうが、家が狭いものですから、皆さんに来て頂けなくて、残念でした」

「ありがとうございます。皆では、あなたが、押しつぶされてしまおうとでも、マーティンさん、お思ひになったのでしょうか」

これに答えて、セラーズは、それは旧友の余計な心配ですよと言って笑った。

とにかくも、万事その旧友が予期したよりも、よく行きそうであった。マーティンは、ただジュデイスが、ソファの上に帽子をほおり出したり、マントルピースの上の鏡に向って、乱れた髪に指を通したりするのを、セラーズが大目に見てくれればよいがと思った。食卓につくと、セラーズは、ホキータ家の子供たちのことを話し出した。子供たちの名を、すっかり覚えてしまつて、義理の子たちをふくめて、全部に一日も早く会いたいと言つた。そして「マーティンさんが考えていらっしめるように、私は、そなたやすくは、皆さんがいらしても、押しつぶされはしません」と言い添えた。

○六月号は幼稚園を家庭という題で特集とした。保育所と家庭との問題もとり上げたかったのであるが、余りに多岐にわたるので紙面の都合上特に触れることが出来なかつたけれども、同じ一連の幼児教育のこと、保育所の方々にも参考にさせて頂けよう。

幼稚園の考えている幼稚園と、家庭の考えている幼稚園との間には時々溝があるようだ幼稚園にきえておけば、もう子供の教育は幼稚園にお任せしたのだから、と考えていたり、幼稚園は子供を預かつてだけくれる所と考えていたりする家庭も少なくはないらしい。幼稚園の方でも一人一人の子供の家庭に無知であつてはなるまい。一人として同じ子供がいないように、一つとして同じ家庭もない。そうして、家庭は子供の一部であり、子供の血管の中にまでしみこんでいるのだ。子供が幼稚園に来るようになる、今度は幼稚園が子供の体の中

編集後記

にしみこんでくる。親と子供と先生と、皆が手をつないで、始めて良い子供が生まれるだろう。皆が手をつないで円い輪を作るには、手のつなぎ方も知らなくてはならないし、どうやつたらうまく行くか工夫もしなくてはならない。人の集まる所には、どうやつたらうまくゆくかという工夫がいつも必要なのだ。幼稚園と家庭の連絡をめぐつて幼稚園の先生方から、又子供を幼稚園に送つた家庭のお母様らの御意見は、今後も参考にすべきであろう。

○日本の国を訪れた数々の災い、汚職の暗雲。そして水爆の旋風が国土の上空に漂つている。どこからか清々しい風が吹いて来ないだろうか。どこからか新鮮な空気を入れなければ。……子供達は無邪気に遊んでいる。けれども、此の子供達の中にも、あと十五年か、二十年先には類に八の字をよせてしまふ眼の輝やきを失つて、喜びを失つてしまふ者があるのだろうか。子供と接するの使命は重い。

幼児の教育 第五三巻 第六号

定価金五十円

昭和二十九年 五月二十五日印刷
昭和二十九年 六月 一日発行

東京都中野区千光前町一〇

編集兼 倉 橋 惣 三
発行者

東京都文京区大塚町三十五
お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

発売所 株式会社 フレーベル館
振替口座東京一九六四〇番

○本誌御購読についての御注文は発売所
フレーベル館にお願いします。